


かわせみ

kawasemi 



—1996. 夏号—



冬鳥一斉調査で11,615羽数え上げる
八王子カワセミ会都知事表彰受ける



八王子カワセミ会は

浅川の野鳥を観察する市民グループです



CONTENTS

浅川周辺の野鳥

調査

平成8年度浅川の冬鳥一斉調査結果	・・・4
〃 オオルリの生息数調査結果	・・・10
〃 カルガモ繁殖状況調査結果	・・・14
ハクセイキレイの集団ねぐら	・・・16
ヒメアマツバメの動向	・・・17
平成7年(1995)繁殖調査結果	・・・18

鳥信 (主として1996年1月から6月迄のもの)	・・・20
--------------------------	-------

ニュース	八王子カワセミ会緑化功勞により東京都知事表彰を受ける	・・・29
	『数え上げた浅川の野鳥』全国へ広がる	・・・30
	19年ぶりに多摩川にオオハクチョウ飛来	・・・13

通信

信

浅川の冬鳥は減ったか? (粕谷和夫)	・・・32
世界環境週間と浅川の清掃と八王子市役所 (粕谷和夫)	・・・34
駒ヶ根通信 (平沢辰夫)	・・・36
安曇野だより No. 4 (大関 豊)	・・・38
柚木東小学校クラブの探鳥支援 (川上 恚)	・・・40
平成8年戸隠探鳥会バスツアー初参加体験記 (藤江 豊)	・・・42
妙高・火打山登山探鳥会 (藤本ヤス子)	・・・44
仲ノ神島を訪ねて (古山 隆)	・・・46
守ろう八王子ニュータウンの緑 (粕谷和夫)	・・・48
シジュウカラの巣立ち (今井達郎)	・・・49
ハクガン 5,000Kmの旅 (北平 章)	・・・50
退職と探鳥と (馬場 裕)	・・・52
ガビチョウについて	・・・28
いくつ読めますか	・・・43

八王子カワセミ会の主な調査範囲位置図



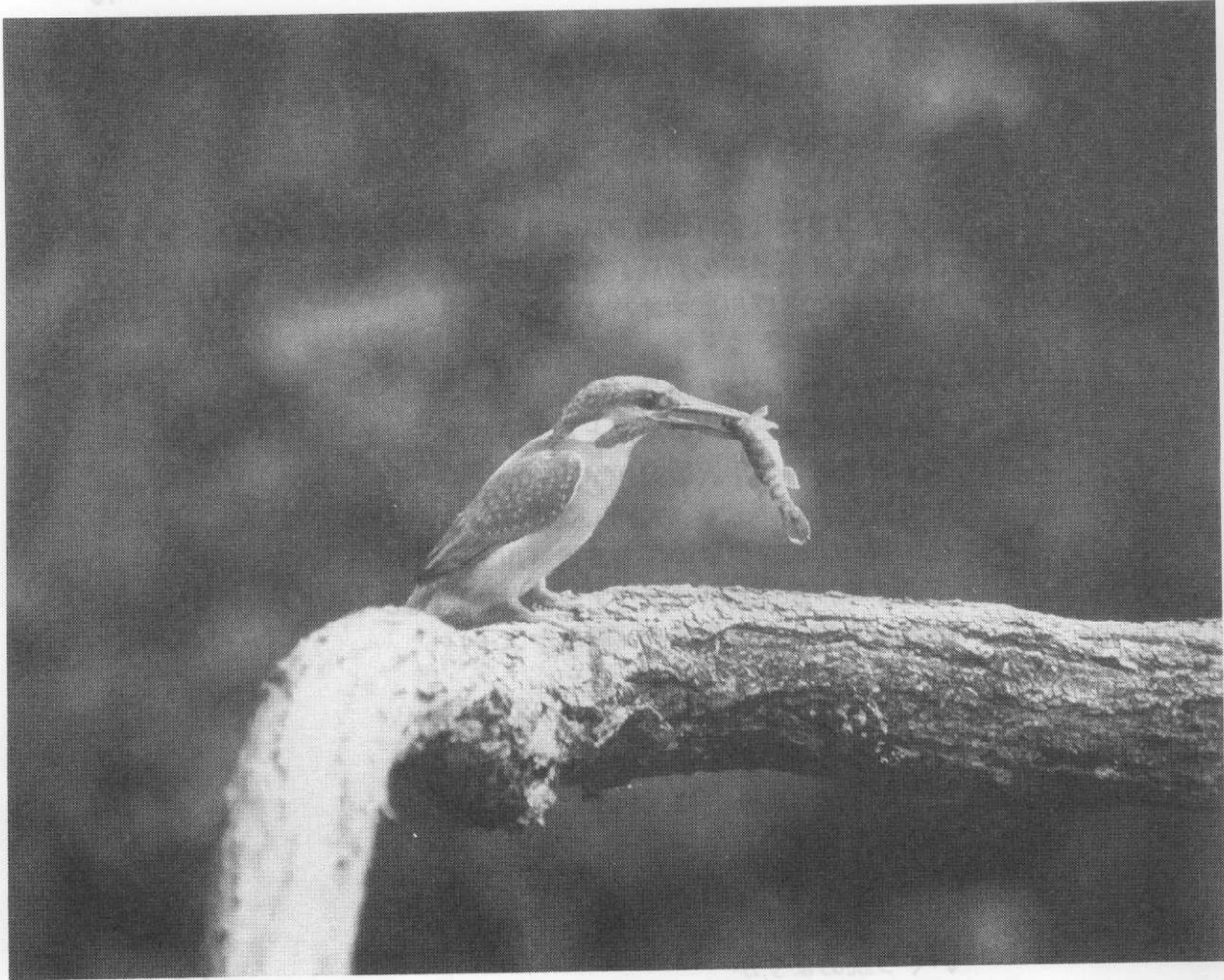
CONTENTS

浅川周辺の野鳥

5
10
14
18

果樹園長一筆の川魚と平
果樹園長と鳥のいふこと
果樹園長と鳥のいふこと
果樹園長のいふこと

鳥
大



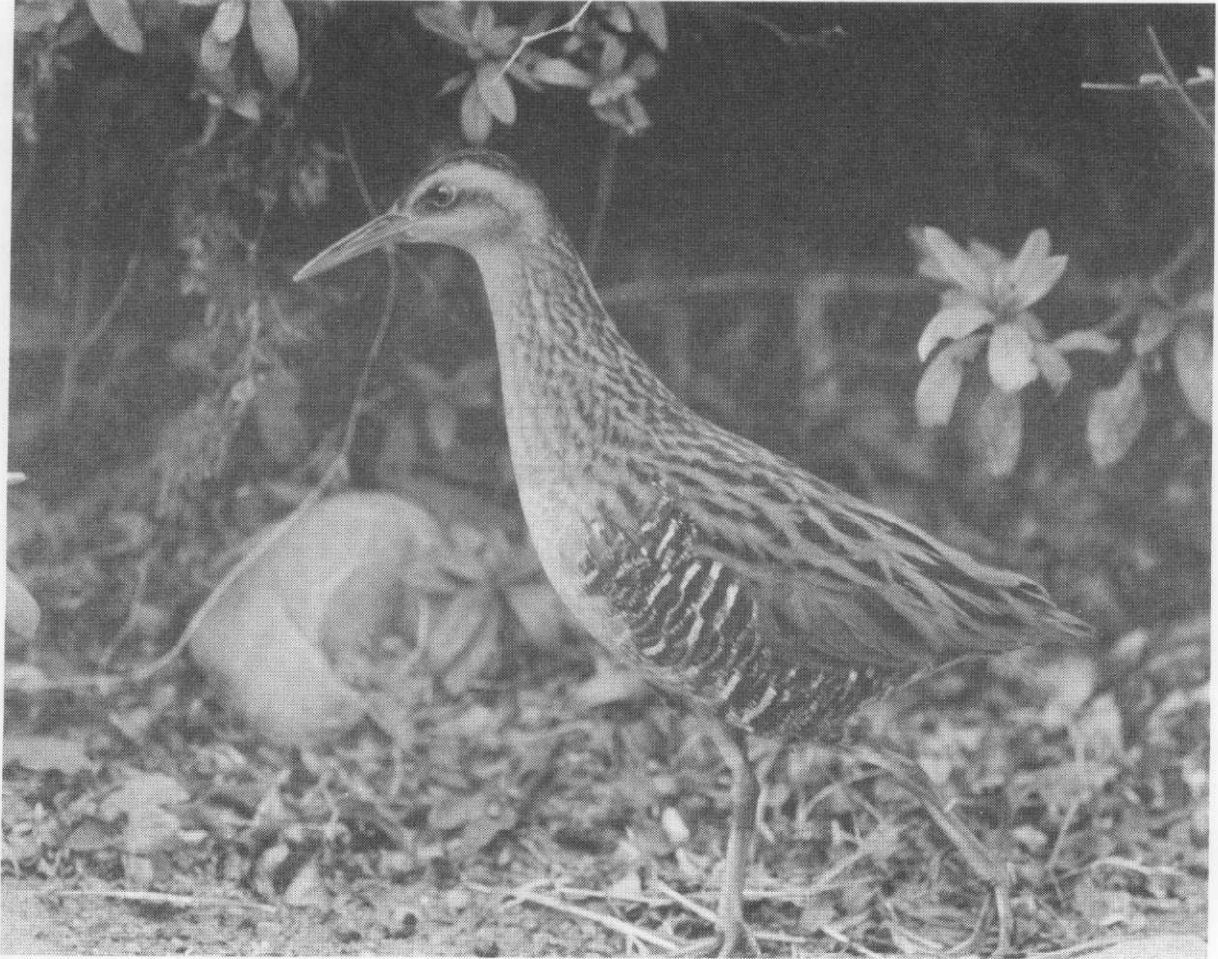
カワセミ♀ / 1995.7 / 多摩川・大栗川合流部

鳥園立園強査観ぶ主の会ミヨワ代平王八

果樹査察隊の平本【1】

日付 1996.2 / 片倉公園 (撮影前頁共：川上 志)

クイナ / 1996.2 / 片倉公園 (撮影前頁共：川上 志)



平成8年浅川の冬鳥一斉調査結果

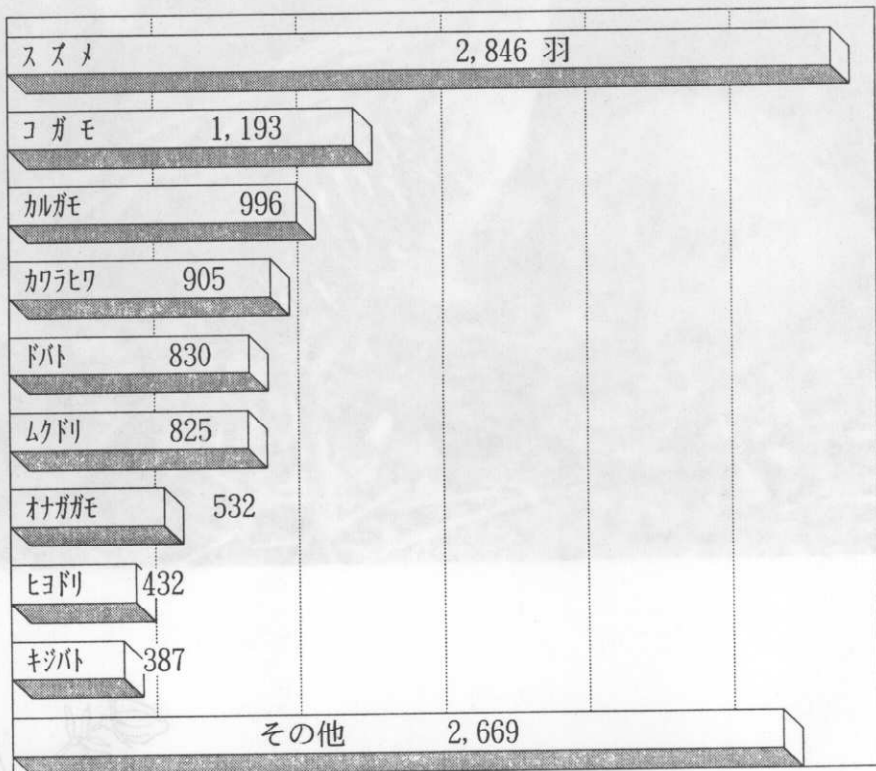
【1】本年の調査結果

本年も昨年同様浅川の本・支流49.5kmを16の区域に分割して、1月14日の午前中一斉に冬鳥のカウント調査を行った。

この調査は、1984年から毎年実施しており、本年で13年目である。1984年鶴巻橋から長沼橋間5.8kmの調査から始まり、1991年以降本年と同じ調査区域となった。

結果は、(表-1)のとおり、62種、11,615羽である。この内出現数の多い上位9種は(図-1)のとおりである。

(図-1) 浅川に多い冬鳥上位9種

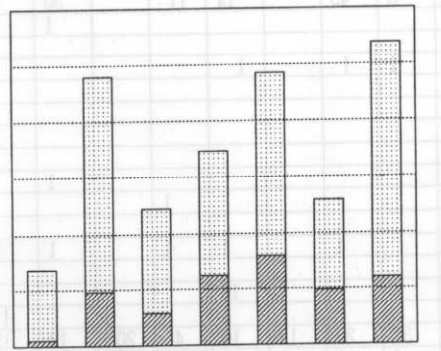


(表-1) 1996年(平成8年)カモ類他冬鳥調査

番号	名称	北浅川		浅川上流			浅川下流			川口川		南浅川		城山	山田	湯殿川		合計
		大沢	陵北	松枝	鶴巻	大和	長沼	一番	幼い	川口	明治	案内	敷島	月夜	山田	白旗	時田	
		陵北	松枝	鶴巻	大和	長沼	一番	幼い	合流	明治	合流	敷島	合流	合流	合流	時田	合流	
5	カイツブリ		1					1										2
40	カウ		3	6	16	20	9	3	48			5						110
52	ダイサギ						17	17	1			2						38
57	ダイサギ		6	11	5	6	4	2	2	1	2	11						50
59	コサギ	10	31	7	15	10	12	10	9	5	5	7				1	2	125
62	アオサギ					10	1	1	2			1						15
69	クロサギ					1												1
87	マガ		12	8	1			4	5	1		1					1	33
88	カルガ	29	99	41	158	50	70	56	64	48	78	46	52	63	28	34	80	996
89	コガ	3	147	36	80	211	135	120	65	34	84		86	68		64	60	1,193
91	ヨサギ															1		1
92	オカヨサギ					2												2
93	ヒドリ			15	17	42	83	45	45			5	8					260
95	村ガ			19	128	98	52	70	47	6	45	14	17			30	6	532
97	ハネロ					25	4	5								1	1	36
115	ミヅアサ								3									3
120	トビ		1	1		2	1			1	1		1					8
123	オオカ	1																1
145	チョウゲンボウ					2												2
149	コジュケイ	1	1															2
151	キジ				2	1												3
160	クイ															1		1
177	イカルチドリ		3		3	3	6	16	7					1				39
186	タゲリ					1												1
218	イソギ		3	2	2	5	4	2	12		1		1	1		1	2	36
230	クサギ							1	1									2
245	ユリカモメ			4	42	37	23	14				10						130
246	セグロカモメ		1	5	2	3	3	1	2			1					1	19
296	キツバト	42	24	11	42	28	24	26	52	31	30	12	16	4	20	10	15	387
326	カワセミ	2	10	2	2	3	2	3	1	4	1		3					33
331	アオゲラ	1																1
336	アオゲラ																1	1
339	コゲラ		5		1	2		3			4				2			17
344	ヒヨ							6				4			2			6
354	キセキレイ	3	4				3	1	1	3	4	6	4	2	1	4	4	40
355	ハレキセキレイ	4	7	9	20	21	21	13	24	6	13	5	18	5	12	4	20	202
356	セグロキセキレイ	20	27	7	6	10	10	22	4	13	17	11	11	6	3	6	10	183
363	外ハ	1		2	2	11	7	5	6	2	3		1	1			2	43
367	ヒヨドリ	33	57	18	12	20	24	23	65	27	25	38	13	22	29	6	20	432
369	モズ	4	1	5	3	4		3	6	8	3		3	1	1	1	4	47
376	ミソサザ																1	1
387	ジョウビタキ	6	3	1	7	5	3	3	2	1	1	3	1	1	1		2	40
400	アカハラ	1																1
405	ツグミ	33	31	13	11	21	7	20	32	6	8	15	4	3	4	6	4	218
410	ウグイス	2	7	1	1	3			2	4	2	1						23
441	ジョウカラ	16	13	6	2	11	2	13	2	5	2	6	4	7	18		4	111
444	メジロ	2	1		2			4		4	2	12	1		20		1	49
449	オオソ	8	71	8	4	44	17	16	25	3		6	2			5		209
455	カササギ	27	6	2		8		1		1	1						1	47
461	アオジ	9	13	2	3	8	10	12		8		2	1	4			2	74
471	カワセミ	46	202	16	39	147	66	173	64	10	18	8	47	18	11	10	30	905
485	イカル	3																3
486	シ	1	7					2										10
488	スズメ	43	352	180	312	292	175	398	267	142	145	80	130	53	67	50	160	2,846
493	ムクドリ	55	61	32	123	16	16	21	165	59	70	22	42	50	46	17	30	825
496	カス	1														1		2
498	オナガ	30				1			3	10	1				29			74
503	ハルボウガラス	7	16	7	7	17	20	19	42	9	11	4	3	5	5	9	15	196
504	ハブアガラス		6	16	3	29	2	17	4	3	7	8	5		2	2	2	106
A	アヒル					1			3	1		5						10
B	ドバ	5	62	18		78	69	65	52	11	75	26	185	81	53	30	20	830
V	マルガ					1				1								2
	計	449	1294	511	1073	1308	904	1236	1133	469	657	316	696	418	357	294	500	11,615
	種類数	32	35	32	34	41	35	41	36	31	30	22	34	22	21	23	28	62
	参加者数	5	4	1	4	4	4	5	2	9	4	6	4	3	2	2	8	67

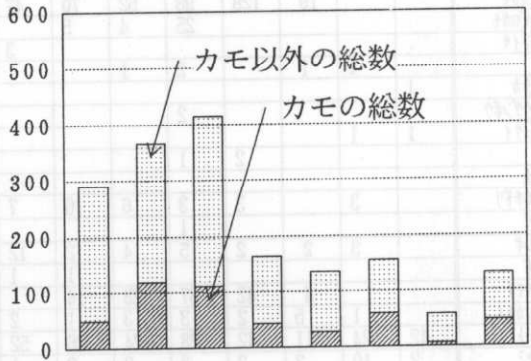
区域別1kmあたりに換算して野鳥数を比較すると（図-2）とおりで、昨年引き続き大沢橋から陵北橋の間が野鳥数が少ない結果となった。また、浅川本流と支流別1kmあたりに換算して野鳥数を比較すると（図-3）のおりで、浅川本流に野鳥数が多く山田川に少ない結果となった。これも、昨年と同じ傾向である。

（図-2）
各区間ごと1km当たりの
野鳥の総数



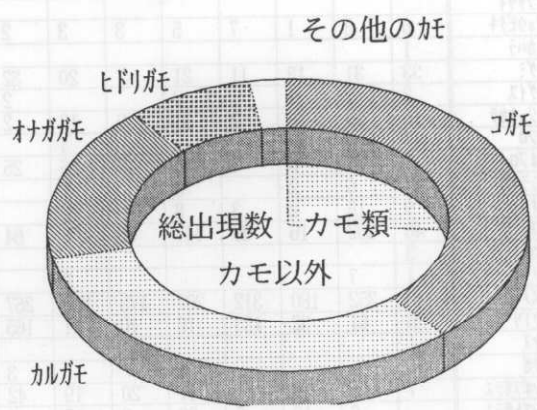
大 陵 松 鶴 大 長 一 合
沢 北 枝 巻 和 沼 番 流
橋 橋 橋 橋 田 橋 橋 部

（図-3）
浅川本流及び各支流の1km当たりの野鳥の総数（羽）



北 浅 浅 川 南 城 山 湯
浅 川 川 川 浅 山 田 殿
川 (上)(下) 川 川 川 川 川

全羽数11,615羽の内、カモ類は9種出現し、3,056羽で26%を占めた。
種類別では、多い順にコガモ、カルガモ、オナガガモ、ヒドリガモがその上位4種でカモ類全体の98%を占めた（図-4）



（図-4）総出現数に占めるカモ類の割合と主なカモの比率

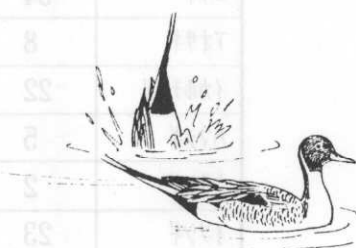
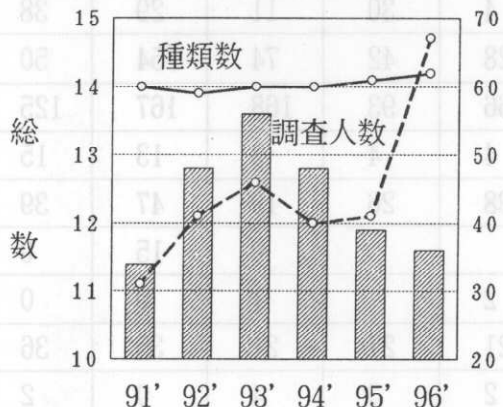
【2】年次変化

調査区域が浅川本・支流の45.9kmとなった1991年からの変化を見ると、(図-5)(表-2)のとおりである。

種類数は60種前後と変化がないのに対し羽数は1993年の13,557羽を最高にここ3年間連続低い数字となった。

また、本年の調査に参加した会員は(表-4)のとおりで67人の会員が参加した。これは過去最高の人数である。

(図-5) 1991年から1996年の総括
(×1,000羽) (人)

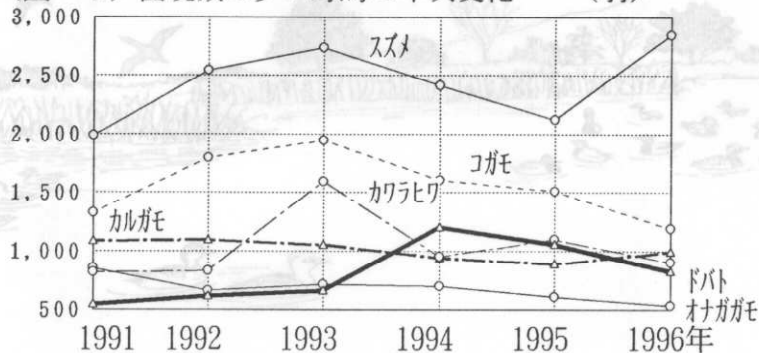


(表-2) 1991年から1996年の総括表

年次	調査日	総数(羽)	種類数(種)	調査人数
1991年(平成3年)	1月13日	11,356	60	31
1992年(平成4年)	1月12日	12,825	59	41
1993年(平成5年)	1月10日	13,557	60	46
1994年(平成6年)	1月9日	12,787	60	40
1995年(平成7年)	1月8日	11,917	61	41
1996年(平成8年)	1月14日	11,615	62	67

出現数の多い野鳥の年次変化は(図-6)のとおりで上位2種は変化がなくコガモ、オナガガモの減少がみられる。

(図-6) 出現数の多い野鳥の年次変化 (羽)



カモ類以外の水鳥、水辺の鳥の年次変化は（表-3）のとおりで、コサギの増加、ユリカモメの減少が見られる。カワセミは33羽で過去最高となった。

（表-3）水鳥、水辺の鳥の年次変化（羽）

年次	1991'	1992'	1993'	1994'	1995'	1996'
カイツブリ	1	3	3	3	0	2
カワ	108	76	230	236	120	110
ゴイサギ	6	4	30	11	29	38
ダイサギ	31	28	42	74	54	50
コサギ	54	66	93	168	167	125
アオサギ	8	4	4	3	13	15
イカルチドリ	22	38	26	19	47	39
ハマシギ	5			0	15	0
クサシギ	2	2		1	0	0
イソシギ	23	21	27	21	35	36
タシギ	5	2	3	4	0	2
セグロカモメ	5	5	38	22	17	19
ユリカモメ	881	783	659	830	391	130
カワセミ	13	24	14	16	19	33
キセキレイ	59	75	74	77	56	40
ハクセキレイ	182	200	165	197	219	202
セグロセキレイ	236	275	237	213	226	183
タヒバリ	101	125	106	81	55	43



(表-4) 本年の調査区域と調査担当者

区 域	延長	調査メンバー
(1)北浅川 (大沢橋～陵北大橋)	3.3	今井達郎 関根伸一 前田善明 柚木鎮夫 柚木育子
(2) " (陵北大橋～松枝橋)	2.7	河村道寛 河村洋子 峯尾良雄 峯尾真澄
(3)浅川 (松枝橋～鶴巻橋)	2.1	清水茂
(4) " (鶴巻橋～大和田橋)	3.1	藤江豊 田中英吉 杉田陽子 本島てるみ
(5)浅川 (大和田橋～長沼橋)	2.7	湯原直彦 湯原ひろみ 細谷修一 松崎静枝
(6) " (長沼橋～一番橋)	3.5	山崎悠一 山崎久美子 直江和子 渡嘉敷敏子
(7) " (一番橋～万願寺橋)	2.1	馬場裕 馬場百合亜 木村正子 下重光正 原田佳世
(8) " (万願寺橋～多摩川合流)	2.3	阿江範彦 小塩菊子
(9)川口川 (川口橋～明治橋)	3.1	古山隆 鈴木章七 川戸恵一 井手龍世 栗原勝 栗原正江 杉森熊二 杉森ユリ 黒沢静江
(10) " (明治橋～浅川合流)	3.8	三好恒雄 永見博子 小澤礼子 小澤節子
(11)南浅川 (案内橋～敷島橋)	3.3	川上恵 横山由美子 志村進 久保田ヤス子 橋詰武春 他1名
(12) " (敷島橋～北浅川合流)	4.2	榛沢務 尾又英雄 大川征治 大川香
(13)城山川 (月夜峰新橋～北浅川合流)	2.7	木村晴美 小池一男 中村保一
(14)山田川 (山田橋～浅川合流)	4.5	門口一雄 門口裕子
(15)湯殿川 (白旗橋～時田橋)	2.3	三富恒男 加藤岸男
(16) " (時田橋～浅川合流)	3.8	粕谷和夫 高橋節子 丸山二三夫 木村信幸 栗原友子 高橋節子 小笠原敏子 佐藤亮 佐藤哲朗
49.5 Km		67 名

(まとめ: 阿江範彦)

平成8年オオルリの生息数調査結果

八王子市の鳥・オオルリの生息地である山間部の自然環境の動向を見守るため、1992年以来生息数調査を毎年行っている。96年の結果は次の通りです。

1. 調査場所

第2表に示す通り八王子市内の丘陵地、山間部の沢筋、谷筋で行った。昨年の16区域に対し、②及び③を新たに加え、また醍醐川流域を⑥及び⑦に分割して19区域で行った。なお、踏査総延長は103.5kmであった。

2. 調査時期

平成8（1996）年4月下旬～6月下旬にそれぞれの区域で2～3回行った。

3. 調査参加会員数

第2表の通り、延べ57名の会員が調査を行った。

4. 結果

結果は第2表の通りであり、19区域（沢筋、谷筋）の内、16区域で合計45羽の♂を確認した。なお、今年はオオルリの飛来が遅かったようで、4月中には殆ど姿を見ることが出来なかった。

5年間の動向は第1表の通りで、今年は例年より多かった。

(第1表) 八王子市内、オオルリ出現数年変化

	1992	1993	1994	1995	1996
材羽♂合計数(羽)	25	30	28	38	45

オオルリのカウントと同時に実施した夏鳥他全野鳥の調査結果は第3表の通りであり、本年は62種（昨年は59種）が出現した。8割以上の出現率を示したもの（15区域以上で出現）はコジュケイ、キジバト、アオゲラ、コゲラ、キセキレイ、ヒヨドリ、クロツグミ、ヤブサメ、ウグイス、センダイムシクイ、オオルリ、ヤマガラ、シジウカラ、

メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、イカル、スズメ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラスの21種で、希少種としてはミゾゴイ、ノスリ、ジュウイチ、カッコウ、コマドリ、コルリ、トラツグミ、クロジ等である。また、ヤマドリは4区域、アオバトは3区域、サンコウチョウは4区域で観察された他、ガビチョウが6区域で観察されたことが注目される。

(取りまとめ：粕谷和夫)

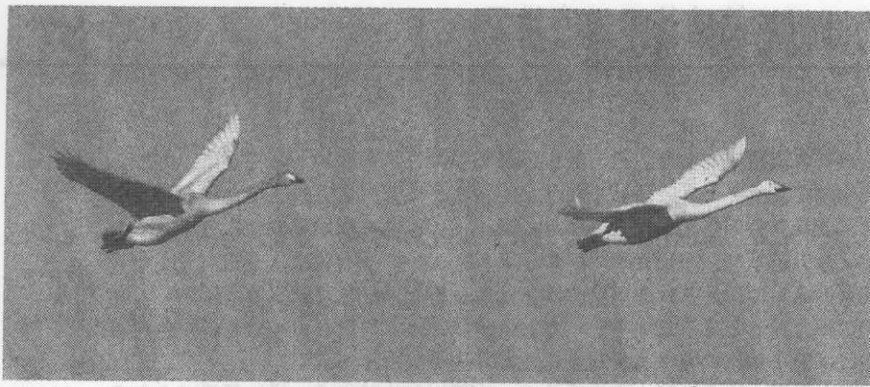
(第2表) オオルリの調査場所別出現数(1996年)

19区域の内分け	調査延長	材卵数	調査責任者	延参加数
①上川(今熊山北沢、同南沢、金剛の滝)	5.0	2羽	河村道寛	2名
②加住南丘陵(谷地川源流部)	6.0	0	粕谷和夫	4
③川口丘陵(天合峰、釜の沢、滝の沢)	3.5	1	川戸恵一	3
④美山(山入川奥、美山小学校奥、お屋敷川)	5.0	0	桑原文夫	1
⑤小津(小津バス停奥小津川源流部)	6.0	3	三好恒雄	1
⑥醍醐上流(醍醐川上流部、ににく沢)	4.5	1	馬場裕	2
⑦醍醐下流(醍醐川下流部、盆堀林道)	6.5	3	尾又英雄	2
⑧和田峠下(くぬぎ沢、和田峠谷)	3.0	4	古山隆	1
⑨明王峠下(明王溪谷、関場峠北側)	5.5	7	門口一雄	2
⑩力石周辺(力石沢、南土代沢、駒木野沢他)	5.0	2	山崎悠一	2
⑪松竹周辺(板当・滝の沢林道、八王子城跡北)	12.0	3	今井達郎	5
⑫元八王子(御主殿の滝奥、八王子城跡奥)	4.0	1	粕谷和夫	5
⑬裏高尾(小下沢林道関場峠迄)	5.0	4	阿江範彦	2
⑭小仏城山下(日陰沢城山頂上迄、行の沢)	4.5	2	小池一男	2
⑮高尾山1(6号路、3号路、琵琶滝下山コース)	5.0	4	木村晴美	10
⑯高尾山2(日陰沢コース、4号路、5号路、1号路)	7.0	4	粕谷和夫	1
⑰大垂水峠下(案内川上流から一丁平方面)	3.0	2	川上忠	7
⑱表高尾(中沢川、入沢川、榎窪川)	10.0	2	柚木鑽夫	2
⑲初沢川(初沢川)	3.0	0	田中英吉	3
計	103.5	45		57

注) 調査延長は実際に踏査した路を2万5千分の1地形図に落とし、CURVIMETERを使って図測した概数値kmである

第3表 オオドリ出現期における夏鳥他全野鳥の出現状況（出現した野鳥：●印 1996年4月～6月）

	①～⑨は第2表の①～⑨に対応	① 上川	② 加住南丘陵	③ 川口丘陵	④ 美山	⑤ 小津	⑥ 醍醐上流	⑦ 醍醐下流	⑧ 和田峠下	⑨ 明王峠下	⑩ 力石周辺	⑪ 松竹周辺	⑫ 元八王子	⑬ 裏高尾	⑭ 小仏城山下	⑮ 高尾山琵琶滝	⑯ 高尾山蛇滝	⑰ 大垂水峠下	⑱ 表高尾	⑲ 初沢川	出現箇所数
50	ミソコイ		●									●					●				1
59	コサキ											●					●				2
88	カカガモ		●		●	●	●				●	●		●		●	●	●	●		13
89	カガモ											●								●	1
120	ヒ		●	●		●				●	●	●	●		●	●		●	●		11
123	オオカ		●	●							●					●					4
129	ノスリ											●						●			2
149	コシユケイ	●	●	●	●		●	●		●	●		●	●	●	●	●	●	●		16
150	ヤマトリ			●			●			●	●									●	4
151	キ	●	●					●		●	●	●									8
296	キジバト	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	18
298	アオバト					●			●											●	3
300	ジュウイチ									●											1
302	カッコウ									●											1
303	ツツトリ					●	●		●	●	●				●	●		●			7
304	ホトキス			●			●	●	●	●	●		●			●	●	●	●		10
319	ヒメアマツバメ															●					1
320	アマツバメ						●		●								●				2
326	カササギ											●					●				2
331	アケラ	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	16
336	アケラ	●	●													●	●	●	●	●	2
339	コガラ	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	17
347	ツバメ	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	11
350	イワツバメ	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	4
354	ヒキレ	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	19
355	ハクセキレイ				●															●	1
356	セウロセキレイ					●	●	●				●								●	5
367	ヒヨトリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	19
369	モズ	●	●	●								●								●	8
376	シメサライ	●	●																	●	13
380	コマトリ							●							●						2
385	コトリ	●								●											2
396	トラツグミ										●									●	2
399	クオツグミ	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	16
400	アカハラ						●														3
402	アカハラ										●										1
405	ツグミ				●						●									●	5
409	ヤブサメ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	18
410	ウグイス	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	18
422	セウロイムシクイ	●	●	●																	17
427	ヒタキ	●	●																		11
430	オオドリ	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	16
434	サコウチョウ							●													4
435	エナカ	●	●	●			●		●												11
438	コガラ	●																			3
439	ヒガラ	●						●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	11
440	ヤマガラ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	18
441	ジュウカラ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	19
444	メジロ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	19
449	ホシロ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	19
461	アオジ					●						●				●	●	●	●	●	8
462	クロジ						●														1
471	カラビロ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	17
485	イカル	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	15
488	スズメ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	17
493	ムクドリ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	8
496	カス	●				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	17
498	オカ		●																	●	6
503	ハボソカラス	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	15
504	ハソトカラス	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	15
	トバト										●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	1
	カビチョウ		●	●																	6
	種類数計	31	30	30	23	25	37	30	29	35	38	39	29	14	23	34	35	29	32	21	62



95.12 白い珍客、青空を舞う

冬晴れの空を飛ぶオオハクチヨウ 9日午前8時

多摩川で十九年ぶりに確認された二羽のオオハクチヨウは、九日も多摩川上空を元気に飛び交う姿を見せた。

この日は、早朝から愛鳥家らが「ハクチヨウオオツチンク」に繰り出し、冬晴れの真っ青な空をバックに飛ぶ美しい姿や、川の中州多摩川のオオハクチヨウで羽を休める様子を、カメラや双眼鏡で熱心に追いかけていた。

愛鳥家らは、今のところ、人間を恐れて逃げてしまうような様子はないようだ。あまり近付いて刺激したりせず、遠くから静かに見守ってほしいと呼びかけている。

多摩川に昨年十二月に十九年ぶりに飛来し、越冬の

幼鳥無残死がいで発見

19年ぶり飛来のオオハクチヨウ

多摩川 96.1.9

期待が持たれていた親子と見られる二羽のオオハクチヨウのうち、幼鳥の方が、七日、日野市内の同川中州で、死がいで見つかった。

発見したのは飛来後、毎日のように二羽の観察を続ける一方、「多摩川に『白鳥湖』を」をキャッチフレーズに観察に訪れる人たちにパンフレットを配るなどの保護活動をしてきた日本鳥類保護連盟監事の津戸英守さん(七三、立川市在住)と仲間たち。

昨年暮れから幼鳥の姿が見えなくなっていたため、この日早朝、二羽が「寝床」としていた多摩川と浅川の合流点の中州付近を探していたところ、一面に羽が散らばり内臓がくいちぎられた幼鳥の無残な死がいがあった。死後十数日ほどたった。

野犬かキツネに襲われたらしく、津戸さんは「幼鳥の姿が見えなくなり心配していた。親鳥も幼鳥がいなくなつてから二、三日で見えなくなった。仲間をさがして飛び立ったのでしょう」と残念をうたった。

二羽のオオハクチヨウにとって多摩川は、「南の楽園」とはならなかったようだ。



無残な姿で発見されたオオハクチヨウの幼鳥の死が



平成8年カルガモ繁殖状況調査結果

浅川の本支流はカルガモの繁殖地であり、その数を1988年以来毎年カウントしている。カウント調査は昨年同様、浅川の本支流を15に区分した他、谷地川と大栗川を継続するとともに本年は新に程久保川を加え、会員が分担して5月から7月の間に1～3回の現地観察によって行った。

結果は第1表及び第2表の通りで、浅川水系では親子連れファミリー数は36組、子194羽で昨年と比べ少し回復の兆しが伺える。本支流の内訳は第3表の通りで、浅川本流において年々続いている減少傾向は気になるところである。なお、今年は例年に比べカルガモの孵化が遅かったようで、5月中には親子連れの姿はあまり見ることが出来なかった。

谷地川、大栗川及び程久保川の結果は第1表の通りで、大栗川が比較的多い様に見受けられる。

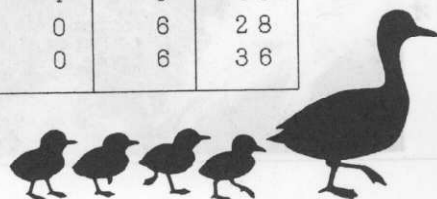
(取りまとめ：粕谷和夫)

(第2表) 浅川水系におけるカルガモの繁殖状況年次変化 単位：組、羽

年次	親子連れ				単独成鳥	総計
	組数	親数	子数	平均子数		
1988	52	52	276	5.3	402	730
89	45	49	228	5.1	379	658
90	84	88	451	5.4	594	1133
91	57	61	318	5.6	537	916
92	44	58	272	5.0	452	782
93	48	49	254	5.3	633	936
94	48	49	275	5.7	623	947
95	28	28	146	5.2	522	696
96	36	38	194	5.4	613	845

(第3表) 浅川水系の本支流カルガモの親子連れ組数年次変化 単位：組

年次	北浅川	浅川本流	川口川	南浅川	城山川	山田川	湯殿川	合計
1988	2	30	13	2	0	1	4	52
89	0	18	7	6	9	1	4	45
90	2	36	15	11	9	1	10	84
91	2	22	10	5	5	1	12	57
92	3	24	5	4	6	1	11	54
93	4	19	5	5	7	1	7	48
94	5	18	9	6	4	1	5	48
95	4	10	1	4	3	0	6	28
96	5	9	5	8	3	0	6	36



(第1表) 平成8年カルガモ繁殖期カウント結果

(単位:組、羽)

	担当者 (代表者)	親子連れ			単独 成鳥 数	カルガモ 数総計	
		組 数	親 数	子 数			
北 浅 川	①大沢橋～陵北大橋	今井達郎	3	4	15	10	29
	②陵北大橋～松枝橋	河村道寛	2	2	8	36	46
	計		5	6	23	46	75
浅 川 本 流	③松枝橋～鶴巻橋	福島弥四郎	3	3	18	50	71
	④鶴巻橋～大和田橋	榛沢務	0	0	0	79	79
	⑤大和田橋～長沼橋	丸山二三夫	1	1	6	55	62
	⑥長沼橋～一番橋	山崎悠一	2	2	10	80	92
	⑦一番橋～多摩川合流	門口一雄	3	3	15	55	73
計		9	9	49	319	377	
川 口 川	⑧川口橋～明治橋	古山隆	0	0	0	15	15
	⑨明治橋～浅川合流	三好恒雄	5	5	35	64	104
	計		5	5	35	79	119
南 浅 川	⑩案内橋～敷島橋	川上恚	1	1	5	25	31
	⑪敷島橋～浅川合流	小池一男	7	7	44	60	111
	計		8	8	49	85	142
⑫城山川 (月夜峰新橋～浅川合流)		木村晴美	3	4	16	17	37
⑬山田川 (山田橋～浅川合流)		門口一雄	0	0	0	11	11
湯 殿 川	⑭白旗橋～時田橋	三富恒男	2	2	6	29	37
	⑮時田橋～浅川合流	加藤岸男	4	4	16	27	47
	計		6	6	22	56	84
浅川水系の計			36	38	194	613	845
⑯程久保川 (小宮橋～浅川合流)		谷井正剛	3	3	11	21	35
⑰谷地川 (月見橋～多摩川合流)		粕谷和夫	3	3	17	44	64
⑱大栗川 (遣水～横倉橋)		木村信幸	4	4	25	55	84
総 計			46	48	247	733	1,028

担当者(代表者) 以外の調査参加者:

- ①: 馬場裕、白川史子、②: 河村洋子、③: 清水茂、④: 田中英吉、
⑤: 山崎久美子、⑦: 大川征治・香

ハクセイキレイの集団ねぐら (96年前半)

(1) 八王子市横山町三角広場 (田中英吉調査)

1990年以来、毎月1回継続して行っている日の出前の集団ねぐら(ヤマモモ及びクスノキ)からの朝の飛び出し数のカウント調査、今期(96年1月~6月)の結果は次の通りです。

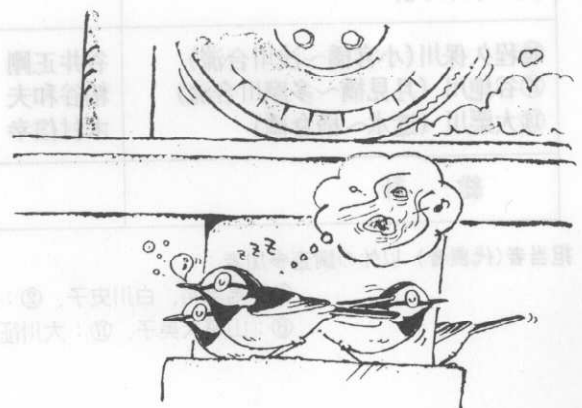
(単位:羽)

時間	3:31	4:01	4:31	5:01	5:31	6:01	6:30	合計
年月日	↓ 4:00	↓ 4:30	↓ 5:00	↓ 5:30	↓ 6:00	↓ 6:30	↓ 7:00	
96'1.30						177		177
2.28					22	69		91
3.31			39	22				61
4.24		46	38					84
5.31	5	20						25
6.28		47						47

(2) 八王子市北野町西東京三菱北野ショップ (粕谷和夫調査)

こちらは日の入り直後の夕方、ねぐら(クスノキ3本, トウカエデ1本)入り数を2回カウントした。結果は次の通りです。ねぐら入り調査は、ねぐらへの出入りが何度か繰り返されるため、カウントに正確さを欠き、概数となります。

2月11日	17時10分~17時50分	約 210羽
4月28日	18時20分~18時35分	約 65羽
6月30日	18時30分~19時20分	約 50羽



ヒメアマツバメの動向 (96年1月～6月)

東浅川の京王線高架下コロニー（下記の「1.」）は94年末に分散した。今期の動向は次の通りです。このデータは観察者によって観察日に確認されたことだけを取りまとめたものです。「2. 東浅川小学校」、「4. の京王線高尾山口駅東側高架下」及び「7. の浅川・浅川大橋下」には定着してないようです。

今期帰巢が確認出来た所は「3.」、「5.」、「6.」及び「8.」の4カ所です。

1. 東浅川京王線高架下（川上志調査）・・・94年末迄6年間継続した所
6月9日・夕 出入り無し（姿無し）
2. 東浅川小学校（川上志調査）
6月9日・夕 出入り無し（姿無し）
3. 京王線高尾駅西側ホーム高架下（川上志調査）
2月14日・夕 使用中と思われる巣5個有り、7～8羽帰巢確認（17:15～17:25）
5月22日・夕 使用中のツバメの巣15～20個（約30羽出入り）の他に、使用中と思われる巣4個確認、4羽帰巢確認（18:50～19:00）
4. 京王線高尾山口駅東側高架下（川上志調査）・・・95年に発見された所
2月21日・夕 使用中と思われる巣2個あったが、帰巢は確認出来なかった
2月22日・夕 再調査・使用中と思われる巣2個確あったが、帰巢は確認出来なかった
5月19日・昼 昼間、周辺での飛翔は確認出来なかった（11:30頃）
5月19日・夕 使用中のツバメの巣約15個（約30羽出入り）の他に、使用中と思われる巣2個あったが、帰巢は確認出来なかった
5. 八王子学園八王子高校体育館・高床の下[ピロティ]（川上志調査）
2月12日・夕 使用中と思われる巣約35～38個確認、約37～38羽帰巢確認（17:00～17:15）
5月23日・夕 使用中のツバメの巣多数（約100羽の出入り）の他に、使用中と思われる巣約30個確認、約50羽の帰巢を観察、育趣中かと思われたが、雛確認出来なかった（18:00～19:10）
6月9日・昼 8羽が周辺を飛んでいて巣に戻っていた。雛がいるものと推定したが、姿は確認出来なかった（11:30～12:15）
6. 浅川・中央高速道橋下（福井司郎・雅美調査）
6月29日・夕 使用中のツバメの巣12個の他に、使用中と思われる巣1個確認、1個の巣に2羽帰巢確認（18:30）
7. 浅川・浅川大橋下（田中英吉調査）
1月11日・夕 出入り無し（姿無し）
4月27日・夕 使用中と思われる巣無し、出入り無し（姿無し）
5月7日・夕 " " "
5月15日・夕 " " "
8. 南大沢駅北（木村信幸調査）
5月22日・夕 5～8羽の帰巢確認（18:27～19:00）

平成7年(1995)繁殖調査結果

日本野鳥の会東京支部が実施している繁殖調査に本会も毎月の定期カウント調査地を主な調査対象地として参加しています。昨年、95年の結果は次表の通りで、「繁殖段階4(繁殖確実と思われるもの)及び5(繁殖を確認したもの)」と判断されたものは37種ありました(取りまとめ:粕谷和夫)。繁殖段階4及び5の内訳は次の通りです。

段階4:繁殖確実と思われる

- ①家族群を観察した
- ②巣材運び等の造巣行動を観察した
- ③巣が有ると思われる所に成鳥がしばしば現れるのを観察した
- ④求愛行為、求愛ディスプレイ、交尾等を観察した
- ⑤威嚇や警戒行動等、近くに巣が有ると思われる行動を観察した
- ⑥繁殖期に営巣出来る環境で、その鳥の囀りを何回も聞いた

段階5:繁殖を確認した

- ①ヒナや卵の有る巣を確認した
- ②抱卵・育雛中の巣を確認した
- ③使用されている巣や巣の有る所へ成鳥が出入りしているのを確認した
- ④巣立ち直後や巣から落ちたと思われる雛を確認した
- ⑤巣立ちした巣を確認した
- ⑥擬傷行動、その他確実の繁殖した事実を確認した

次表でゴイサギとコサギの大和田橋~長沼橋は日野市西平山5丁目(浅川のJR中央線鉄橋付近の竹藪)と同西平山5丁目(旭が丘小学校下の竹藪)のコロニー、ゴイサギの滝合橋~一番橋は浅川・平山橋北の林のコロニーです。

なお、次表にないもので主なものは次の通りですが、具体的な場所は割愛します。

123・材効:メッシュNo.33及びメッシュNo.45・・・ともに巣立ち(5②③④)

314・アハズク:メッシュNo.45・・・ヒナ4羽巣立ち(5④)

315・フクロ:メッシュNo.33・・・ヒナ2羽確認(5①②)

1995年浅川流域野鳥繁殖調査結果(繁殖段階4及び5と判断したもの)

場所	深*陵	陵*松	松*中	鶴*大	大*長	滝*一	一*多	明*川	白*時	滝山下	浅川合	小宮	片倉	長沼	谷地川
メッシュNo.	33	33	33	40	40	45	45	33	40	39	45	39	40	40	39
調査者	IBbSs	Kk	FSKhh	H	Yy	Yy	KkYy	KSaI	M	M	AYy	Tt	K	Bb	K
52	コイナギ				4②③	4①									
54	サコイ		4①												
59	コサギ				4②										
88	カルガモ	4①	4①	4①	4①	4①	5④	4①	4①				5④		4①
149	ゴジュウイ	4①												4①③⑤	
151	キジ	4⑥	4①												
176	コトドリ						4①		4③						
177	イカルドリ		5②				4①								
218	イノキ				4④										
296	キジハト	5②	4②		4②	4②	4②		4④	4⑥			4④	4②③⑥	
326	カセミ	4⑥	4④												
331	アカウラ													4③⑤	
339	コガラ		4④		4③									4①③⑥	
344	ヒバリ										4⑥				
347	ツバメ	5①	4①	4①	4②	5②	5④	4①	5①				5①		5①
350	イワツバメ			4①	5③	5③	5④								5①
354	セキレイ	4③			5③			4①						4①	
355	ハセキレイ					4①							5④		
356	セウロセキレイ	4③	5④	4①	5③	4①		4①							5④
367	ヒヨドリ	4①		4①	5④	4①	4②	4①	4④				5④	5④	4①
369	モズ							4①							
410	ウグイス													4③⑤⑥	
416	オヨソリ			4①	4⑥					4⑥					
425	セッカ				4⑤					4⑥					
430	オオトリ													4③⑥	
435	エカ	4②		4①											
440	ヤマガラ												5④	5①④	
441	シジュウカラ	5②	4①	4①	4①			4①②		4⑥		4①	5①	5④	4①
444	メジロ													4⑤⑥	
449	オソロ									4⑥					
471	ガラヒ				4①	4①									
488	スズメ	5③	5③	5①	4①	4①	5④	4①	4④				5④	5①④	5②
493	ムクドリ	4①	5④	5①	5③	5①	5④	4①		4①			5④		5③
498	オカ				4①										
503	ハシホウガラ	5①	5②	4①	4①		4②			5①②⑤			4②		
504	ハシブトガラ			4①	4②										
B	トハト								4④						

場所と調査者一覧

- 33 深*陵: 深沢橋~陵北大橋, I: 今井連郎, Bb: 馬場裕・百合亜, Ss: 関根伸一・光世
- 33 陵*松: 陵北大橋~松枝橋, Kk: 河村道寛・洋子
- 33 松*中: 松枝橋~中央高速道橋, F: 福島弥四郎, S: 清水茂, K: 小池一男, Hh: 福井司郎・雅美
- 40 鶴*大: 鶴巻橋~大和田橋, H: 榛沢務
- 40 大~長: 大和田橋~長沼橋, Yy: 湯原直彦・ひろみ
- 45 滝*一: 滝合橋~一番橋, Yy: 山崎悠一・久美子
- 45 一*多: 一番橋~多摩川合流, 門口一雄・裕子, Yy: 柚木鎮夫・育子
- 33 明*川: 明治橋~川口橋, K: 粕谷和夫, S: 鈴木章七, 川戸恵一, I: 井手龍世
- 40 白*時: 白旗橋~時田橋, M: 三富恒男
- 39 滝山下: 多摩川・滝山城跡下, M: 三好恒雄
- 45 浅川合: 多摩川・浅川合流付近, A: 阿江範彦, Yy: 柚木鎮夫・育子
- 39 小宮: 小宮公園, Tt: 田中英吉・清子
- 40 片倉: 片倉城跡公園, K: 小池一男
- 40 長沼: 長沼公園, Bb: 馬場裕・百合亜
- 39 谷地川: 谷地川・宮下橋~多摩川合流, K: 粕谷和夫

注)メッシュNo.の説明は会報「かわせみ」No.14(1995.2)を参照して下さい。

鳥信 (主として1996年1月から6月迄のもの)

1. 冬鳥の終認

230・カシキ	96.05/11	1羽	浅川・都立日野高校前	門口一雄
387・シヨウビクサ	96.04/05	♀1羽	八王子市川町の住宅地	今井達郎
405・ツクミ	96.04/21	1羽	北浅川・大沢橋～陵北大橋	今井達郎
455・カシラダカ	96.03/17	6羽	浅川・一番橋下流側100m	門口一雄

2. 夏鳥の初認

347・ツハメ	96.03/10	2羽	浅川・長沼橋付近1羽、ふれあい橋付近1羽 計2羽	金子凱彦
347・ツハメ	96.03/10	2羽	多摩川・滝山城跡下	月例探鳥会
410・ウケイ	96.03/11	1羽	八王子市中野上町の住宅地の庭	小池一男
416・オオシキリ	96.05/07	1羽	浅川・萩原橋上流200mのアシ原	小池一男

3. 通過

320・アマツバメ	96.04/11	2羽	多摩川・滝山城跡下	尾又英雄
349・ゴシアカツバメ	96.04/11	1羽	多摩川・滝山城跡下	尾又英雄
399・クロツグミ	96.05/18	声	八王子市散田町・万葉公園	小池一男
427・キビクサ	96.05/11	♂1羽	浅川・一番橋下流側300mの桜並木	門口一男
427・キビクサ	96.05/12	♂1羽	富士森公園	粕谷和夫
427・キビクサ	96.05/30	1羽	長沼公園、声	馬場裕・百合亜
490・コムクドリ	96.05/11	4羽	多摩川・浅川合流付近	阿江範彦

4. 希少種

005・カイツブリ	96.02/11	2羽	北浅川・陵北大橋下	公開探鳥会
050・ミズゴイ	96.05/18	1羽	加住南丘陵	粕谷和夫、大川征治
050・ミズゴイ	96.06/23	1羽	加住南丘陵	粕谷和夫、大川征治・香、井手龍世
055・アカガシラサギ	95.12月～96.4月末	1羽	北浅川・陵北大橋付近の釣り堀池(時々来て魚をとる)	柚木鎮夫・育子
055・アカガシラサギ	96.03/08	1羽	北浅川・陵北大橋付近の釣り堀りの池・ゴイサギ若鳥に似ているが、飛んだ時に白い翼が明瞭でアカガシラサギと確認	粕谷和夫、古山隆
056・アマサギ	96.05/11	1羽	浅川・一番橋下流側200mの川の中	門口一雄
057・タイサギ	96.03/01	1羽	北浅川・深沢橋下、この辺りでは珍しい	今井達郎
080・オオウチヨウ	96.01/02	1羽	浅川・多摩川合流点、岸辺に死体が1羽横たわっていた	粕谷和夫
090・トモガモ	96.01/21, 01/22	♂1羽	北浅川・山入川の萩園橋上流30～50m、カルガモ1羽と番の様な感じであった	今井達郎、柚木育子
091・シロガモ	96.01/14	♂1羽	湯殿川・釜土橋付近	三宮恒男、加藤岸男
092・オオシロガモ	96.02/10	♂1羽	浅川・長沼橋上流側	粕谷和夫
092・オオシロガモ	96.02/12	4羽	多摩川・浅川合流付近	柚木鎮夫・育子
092・オオシロガモ	96.05/11	2羽	多摩川・浅川合流付近	阿江範彦
115・ミコアイサ	96.04/25	2羽	浅川・鶴巻橋～大和田橋	榎沢務
150・ヤマドリ	96.04/29	1羽	北浅川上流・上恩方力石付近	山崎悠一・久美子
150・ヤマドリ	96.05/09	♂1羽	川口丘陵・滝の沢	川戸恵一

150・ヤマドリ	96.05/16	1羽	醍醐川最上流部	馬場裕、今井達郎
150・ヤマドリ	96.05/18	♀1羽	案下登山道一明王峠	門口一雄
160・ウイ	96.01/14	1羽	湯殿川・釜土橋付近	三富恒男、加藤岸男
160・ウイ	96.01/10~01/22	1羽	北浅川・陵北大橋~元木橋及び山入川と小津川合流付近	柚木育子
160・ウイ	96.01/22	1羽	北浅川・小津川と山入川合流付近、元木小学校の北	今井達郎、柚木育子
160・ウイ	96.02/11	1羽	北浅川・天使病院裏~松枝住宅	公開探鳥会
160・ウイ	96.02/12	1羽	多摩川・浅川合流付近	柚木鎮夫・育子
160・ウイ	96.02/15	1羽	片倉城跡公園	川上恵
160・ウイ	96.03/14	1羽	北浅川・松竹橋上流300m、老人憩いの家裏	川上恵
160・ウイ	96.04/14	1羽	片倉城跡公園	登坂久雄
163・ヒクイ	96.04/29	1羽	多摩川・滝山城跡下、秋川との合流点の堰付近	三好恒雄
163・ヒクイ	96.06/07	1羽	浅川・川口川合流付近の関口建設前の河原、8/7頃から鳴き声を聞いていたが、1週間程して誰かが夜花火をしたためか、その後鳴き声を聞けなくなってしまった	三好恒雄、斎藤高昭
167・ハン	96.01/17~01/22	1羽	北浅川・陵北大橋~元木橋、幼鳥	柚木育子
167・ハン	96.02/17	1羽	浅川・長沼橋上流側	門口一雄
167・ハン	96.03/10	2羽	多摩川・滝山城跡下	月例探鳥会
167・ハン	96.03/17	1羽	浅川・日野市民プール前	門口一雄
167・ハン	96.04/29	2羽	多摩川・滝山城跡下	三好恒雄
167・ハン	96.05/01	1羽	浅川・中央線鉄橋付近、入り江汚泥地帯	小山万太郎
167・ハン	96.05/06	1羽	北浅川・陵北大橋付近	粕谷和夫
167・ハン	96.05/31	2羽	多摩川・滝山城跡下	三好恒雄
298・アオハト	96.04/30	4羽	小津・刈寄山方向の稜線上	三好恒雄
298・アオハト	96.05/11	声	北浅川上流・くぬぎ沢~和田峠下	古山隆
298・アオハト	96.06/08	声	東高尾・初沢川	田中英吉他1名
298・アオハト	96.06/09	声	八王子城跡	柚木鎮夫・育子
298・アオハト	96.06/25	声	案内川上流・国道20号水野橋付近	川上恵
314・アオハズク	96.06/29	1羽	日野市新井	粕谷和夫
317・ヨタカ	96.06/25~06/27	声	元八王子3丁目・高尾台住宅~林野庁桜実験林	川上恵
321・ヤマセミ	96.04/29	1羽	多摩川・滝山城跡下、秋川との合流点の堰付近、下流に飛び去る	三好恒雄
336・アカガラ	96.02/11	♂1羽	長沼公園	大川征治・香
336・アカガラ	96.02/12	1羽	川口丘陵・天合峰	粕谷和夫、川戸恵一
336・アカガラ	96.04/29	2羽	長沼公園・人家の近く、大きな声で鳴き交わす	嶋崎太郎
336・アカガラ	96.05/17	1羽	高尾山・6号路山頂付近	木村晴美他7名
374・ヒシジヤク	96.04/29	8羽	多摩川・滝山城跡下、秋川との合流点の堰から右岸約50m下流の立木2本に止まり新芽を啄んでいた	三好恒雄
374・ヒシジヤク	96.05/06	2羽	浅川・中央線鉄橋際のサギのコロニーの近く	丸山二三夫
376・ミソサザイ	96.01/14	1羽	湯殿川・時田橋下流側	粕谷和夫
376・ミソサザイ	96.01/21	1羽	小宮公園	小宮公園支援探鳥会
376・ミソサザイ	96.02/03	1羽	北浅川・元木橋~陵北大橋の中間点の河原	今井達郎他3名
376・ミソサザイ	96.02/12	1羽	川口丘陵・天合峰	粕谷和夫、川戸恵一
376・ミソサザイ	96.03/16	1羽	高尾山・6号路	粕谷和夫他4名

380・コマトリ	96.04/25	♀1羽	醍醐川・ナラウ沢(龍蔵神社から下流200m北側の沢)	尾又英雄
380・コマトリ	96.04/29	声	小仏城山・日影林道	小池一男
385・コトリ	96.04/27	1羽	今熊山周辺	河村道寛・洋子
385・コトリ	96.05/06	1羽	上恩方案下登山道一明王峠	門口一雄
393・イビヨトリ	96.01/20	♀1羽	浅川・平山橋下	粕谷和夫
396・トツクミ	96.02/24	1羽	小宮公園	大川征治
398・トツクミ	96.04/29	1羽	北浅川上流・上恩方力石付近	山崎悠一・久美子
398・トツクミ	96.04/29	声	表高尾・入沢川周辺	柚木鎮夫・育子
400・アカハラ	96.01/02	1羽	多摩川・滝山城跡下の取水堰付近	粕谷和夫
400・アカハラ	96.01/22~01/29	1羽	小宮公園隣りユウカリ畑の下	本島てるみ
400・アカハラ	96.02/28	1羽	長沼公園	馬場百合亜、木村正子他5名
400・アカハラ	96.03/10	1羽	多摩川・滝山城跡下	月例探鳥会
400・アカハラ	96.04/21	1羽	小宮公園	小宮公園支援探鳥会
400・アカハラ	96.04/27	1羽	小宮公園	田中英吉
400・アカハラ	96.04/27	1羽	長沼公園	馬場裕・百合亜、木村正子
400・アカハラ	96.04/27	1羽	八王子市堀之内の雑木林、囀り	粕谷和夫
400・アカハラ	96.04/28	1羽	川口丘陵天合峰	粕谷和夫他3名
400・アカハラ	96.05/16	1羽	醍醐川最上流部	馬場裕、今井達郎
409・ヤブサメ	96.04/27	1羽	八王子市堀之内の雑木林、囀り	粕谷和夫
409・ヤブサメ	96.04/27	4羽	長沼公園	馬場裕・百合亜、木村正子
409・ヤブサメ	96.04/29	♂1羽	長沼公園・囀り	嶋崎太郎
415・ゴヨキリ	96.06/15	1羽	浅川・高幡橋上流側、アシ原でさえずり	門口一雄
416・オオヨキリ	96.05/10	1羽	北浅川・深沢橋上流50~100m、囀り、この付近では珍しい	今井達郎
422・セントアイシクイ	96.04/27	1羽	八王子市平山城跡公園、囀り	粕谷和夫
422・セントアイシクイ	96.04/27	3羽	長沼公園	馬場裕・百合亜、木村正子
422・セントアイシクイ	96.04/28	1羽	川口丘陵天合峰	粕谷和夫他3名
424・キウイタキ	96.02/12	1羽	川口丘陵・天合峰	粕谷和夫、川戸恵一
424・キウイタキ	96.03/16	1羽	高尾山・3号路	粕谷和夫他4名
430・オトリ	96.04/27	3羽	長沼公園	馬場裕・百合亜、木村正子
430・オトリ	96.06/28	1羽	長沼公園	馬場裕・百合亜、木村正子
434・シノウチヨウ	96.05/06	声	表高尾・入沢川周辺	柚木鎮夫・育子
434・シノウチヨウ	96.05/15	♂1羽	南浅川・大平林道の杉林(国道20号から200m入った所)	川上恚、清水茂、三富恒男、白川史子
434・シノウチヨウ	96.05/23	♀1羽	醍醐林道・龍蔵神社南側の林	尾又英雄、今井達郎
434・シノウチヨウ	96.05/26	♂1羽	裏高尾・小下沢	登坂久雄
434・シノウチヨウ	96.05/28	声	下恩方・板当林道、グリーンファンドの森	今井達郎
434・シノウチヨウ	96.06/25	声	南浅川・大平林道(大平園地北側杉林)	川上恚
443・キハシリ	96.01/19	1羽	高尾山・6号路頂上付近	木村晴美、久保田ヤス子、永見博子、杉森ユリ
462・クロジ	96.01/22	2羽	案内川上流・大平林道	川上恚
462・クロジ	96.05/16	1羽	醍醐川最上流部	馬場裕、今井達郎
470・アトリ	96.02/08	30羽	連行峰・尾根の東	尾又英雄
481・ヘニマシコ	96.02/08	♂2羽	上恩方醍醐林道・和田峠下	尾又英雄

5. 猛禽類

123・オオタカ	96.01/02	1羽	多摩川・滝山城跡下の取水堰付近	粕谷和夫
123・オオタカ	96.01/02	1羽	浅川・多摩川合流付近	粕谷和夫
123・オオタカ	96.01/21	1羽	長沼公園	馬場裕・百合亜
123・オオタカ	96.02/24	1羽	多摩川・滝山城跡下	三好恒雄
123・オオタカ	96.03/10	1羽	多摩川・滝山城跡下	月例探鳥会
123・オオタカ	96.03/18	1羽	長沼公園	馬場裕・百合亜
123・オオタカ	96.04/04	1羽	上恩方・醍醐橋上空	尾又英雄
123・オオタカ	96.04/29	1羽	多摩川・滝山城跡下	三好恒雄
123・オオタカ	96.05/08	1羽	北浅川・陵北大橋付近の高いアンテナの上	粕谷和夫
123・オオタカ	96.05/11	1羽	北浅川・松竹橋下流500mの上空を南から北へ飛ば 今井達郎、柚木鎮夫	
123・オオタカ	96.05/17	1羽	高尾山・6号路ケールカ-麓駅付近	木村晴美他7名
123・オオタカ	96.06/23	1羽	加住南丘陵	粕谷和夫他3名
126・ハイタカ	96.03/31	1羽	多摩川・滝山城跡下	三好恒雄
129・ノスリ	96.01/31	1羽	多摩川・滝山城跡下	三好恒雄
129・ノスリ	96.02/03	1羽	高尾山4号路	粕谷和夫
129・ノスリ	96.02/24	1羽	多摩川・滝山城跡下	三好恒雄
129・ノスリ	96.02/28	1羽	長沼公園	馬場百合亜、木村正子他5名
129・ノスリ	96.03/09	1羽	高尾山・蛇滝コース	粕谷和夫
129・ノスリ	96.03/09	1羽	川口川・川口橋～明治橋	鈴木章七、川戸恵一、杉森ユリ
129・ノスリ	96.03/10	1羽	多摩川・滝山城跡下	月例探鳥会
129・ノスリ	96.03/16	1羽	高尾山・6号路	粕谷和夫他4名
129・ノスリ	96.04/27	1羽	案内川上流・大平林道	川上憲他4名
129・ノスリ	96.05/12	1羽	裏高尾・小下沢	探鳥会
129・ノスリ	96.05/28	1羽	下恩方・滝の沢林道、トビと一緒	今井達郎
141・ハヤブサ	96.03/03	1羽	中野山王・喜福寺、ヒヨドリを追い本堂に入り込む 村岡研一・明子	
141・ハヤブサ	96.03/10	1羽	多摩川・滝山城跡下	月例探鳥会
145・チョウゲンボウ	96.01/07	1羽	浅川・ふれあい橋～一番橋	月例探鳥会
145・チョウゲンボウ	96.03/31	1羽	八王子市堀之内第3トンネルの上	粕谷和夫、山崎悠一
145・チョウゲンボウ	96.04/27	1羽	八王子市堀之内第3トンネルの上	粕谷和夫
145・チョウゲンボウ	96.06/01	1羽	浅川・新浅川橋付近、北野清掃事務所内の煙突にある窓のよ うな所に止まりネズミを食べていて、その後そのネズミを掴ん で川から遠ざかる方向へ飛んでゆく	丸山二三夫
145・チョウゲンボウ	96.06/23	2羽	浅川・新浅川橋付近、川の方から2羽と一緒に飛んで来て北 野清掃事務所近くの鉄塔に1羽が止まり、もう1羽はそのまま 清掃事務所奥方向へ飛び去る	丸山二三夫
315・フクロ	96.02/09～02/18	声	北浅川・陵北大橋付近	粕谷和夫

6. シギ・チドリ類

186・妙ツリ	96.02/10	1羽	浅川・長沼橋上流側、イカルチドリ2羽と一緒に	粕谷和夫
186・妙ツリ	96.02/17	1羽	浅川・長沼橋上流側	門口一雄
186・ハマシギ	96.02/03	1 1羽	浅川・日野市民プール前	門口一雄
186・ハマシギ	96.03/17	1 2羽	浅川・日野市民プール前	門口一雄
186・ハマシギ	96.04/06	2羽	浅川・日野市民プール前	門口一雄

196・ハマシギ	96.05/11	2羽	浅川・日野市民プール前	門口一雄
196・ハマシギ	96.05/19	17羽	浅川・日野市民プール前、夏羽	門口一雄
214・クサシギ	96.01/02	1羽	多摩川・滝山城跡下の取水堰	粕谷和夫
214・クサシギ	96.01/31	1羽	多摩川・滝山城跡下	三好恒雄
214・クサシギ	96.02/19	1羽	浅川・暁橋から浅川大橋方面へ水面を飛ぶ	三好恒雄
214・クサシギ	96.02/24	2羽	多摩川・滝山城跡下	三好恒雄
214・クサシギ	96.03/10	2羽	多摩川・滝山城跡下	月例探鳥会
214・クサシギ	96.03/21	2羽	多摩川・滝山城跡下、水管橋付近・近くにイソギ	尾又英雄
214・クサシギ	96.03/31	1羽	多摩川・滝山城跡下	三好恒雄
214・クサシギ	96.04/06	1羽	浅川・都立日野高校前	門口一雄
228・ヤマシギ	96.01/30	1羽	小宮公園隣りユウカリ畑の下	本島てるみ
230・タシギ	96.04/16	1羽	湯殿川・白旗橋～時田橋	三富恒男
230・タシギ	96.04/26	1羽	湯殿川・釜土橋付近、この付近では珍しい	三富恒男

7. 託卵鳥

302・カコウ	96.05/07	声	八王子市中野	小池一男
302・カコウ	96.06/01	声	北浅川・大沢橋～陵北大橋	今井達郎
302・カコウ	96.06/01	1羽	北浅川・大沢橋～陵北大橋 今井達郎、関根伸一、柚木鎮夫、白川史子	
302・カコウ	96.06/03～06/09	声	北浅川・松枝橋下流右岸泉町周辺	河村洋子
302・カコウ	96.06/08	1羽	川口川・川口橋～明治橋	川戸恵一、杉森ユリ
302・カコウ	96.06/08	1羽	南浅川・水無瀬橋上流200m左岸	小池一男
302・カコウ	96.06/16	声	北浅川・松枝住宅対岸方向	河村洋子
302・カコウ	96.06/29	声	日野市新井	粕谷和夫
303・ツツトリ	96.04/27	1羽	長沼公園	馬場裕・百合亜、木村正子
303・ツツトリ	96.04/27	1羽	案内川上流・大平林道	川上憲他4名
303・ツツトリ	96.04/29	声	小仏城山・日影沢林道	小池一男
303・ツツトリ	96.05/15	声	案内川上流・大平林道	川上憲
303・ツツトリ	96.05/17	声	高尾山6号路頂上付近	木村晴美他9名
303・ツツトリ	96.06/25	声	案内川上流・大平園地の上	川上憲
304・ホトキス	96.05/23	声	八王子市川町	今井達郎
304・ホトキス	96.05/28	声	下恩方・滝沢林道	今井達郎
304・ホトキス	96.06/01	声	高尾山・蛇滝コース	粕谷和夫
304・ホトキス	96.06/02	声	北浅川上流・くぬぎ沢～和田峠下	古山隆
304・ホトキス	96.06/15	声	八王子城跡奥	粕谷和夫他4名
304・ホトキス	96.06/16	声	北浅川・アメニティライフ八王子対岸方向	河村洋子

8. 繁殖

サギのコロ	96.06/30	3年目の集団	日野市西平山5丁目・旭が丘小学校下の竹藪→今年は消滅(1羽もない・竹藪は健在で消滅の原因不明・近くの中央線鉄橋付近のコロへ移動)	粕谷和夫
サギのコロ	96.06/30	2年目の集団	日野市西平山4丁目・浅川の中央線鉄橋付近、豊田側南面の梅林に接する竹藪*18時～18時45分に新浅川橋上から双眼鏡でカウント(ゴイサギ:夜のエサ場に飛び出したもの約50羽、残っているもの約10羽、コサギ:残っているもの約30羽)	粕谷和夫

120・トビ	96.04/28	1組	川口丘陵天台峰、赤松に営巢中（巢中に親1、ヒナ2） 粕谷和夫、鈴木章七、川戸恵一、井手龍世
145・チョウゲンボウ	96.08/30	1組	八王子市東京薬科大学体育館、2羽巣立ち 木村正子
218・イソギ	96.06/02	親1番・子2羽	南浅川、北浅川合流付近 河村道寛他12名
296・キジハト	96.05/08	1番	八王子市中野上町・住宅の2階の雨戸の戸袋の上に営巢・抱卵中（構造物への営巢例） 福島弥四郎
296・キジハト	96.05/15	1番	八王子市元本郷町・楓に営巢 福島弥四郎
296・キジハト	96.05/24	1番	八王子市中野上町の住宅の庭の植木に営巢・抱卵→10日目に放棄 小池一男
315・アカウ	96.06/23	1組	南陽台、親1羽・巣立ち雛2羽 木村正子
326・カセミ	96.06/02	1番	浅川・鶴巻橋～萩原橋、営巢・巣立ち（地元の釣り人からの情報） 粕谷和夫
331・アゲラ	96.5月～7月	1組	八王子市富士森公園のヤマザクラで営巢、 05/11*造巢中の巣を発見・尾羽が見え隠れする程度まで掘り進んでいた 05/12*営巢木の近くで盛んにドラミング 06/02*付近にアゲラの気配は無かったが、巣の直下にオガクズ様の木片が約1m程の広さに散乱→巣掘り完成と判断 06/15*近くにアゲラの気配無し（放棄かと心配する） 06/23*親2羽巣穴への出入り交代を確認（抱卵中か？） 06/29*親が巣に入り中でヒナの賑やかな声を聞く→親が出た後は静か・30分観察して給餌は1回だけ 07/06*巣立ち直前と思われる大きさのヒナが巣穴から顔を出す（羽数不明）→親がエサを与える 粕谷和夫
331・アゲラ	96.06/21	1組	南陽台・スタジオに営巢中の巣穴に1.5m大のアオダオショウが入り込みヒナを飲み込む・蛇の腹のくびれから飲み込まれたヒナは3羽と推定・アゲラの親は周りで騒いでいた 木村正子
339・カウ	96.04/14	1羽	北浅川・東沢橋下流約200m右岸の木の枯れ枝、造巢中 月例探鳥会
347・ツバメ	96.5月～6月	1家	八王子市泉町住宅に営巢・5/23 孵化、6/11ヒ6羽巣立つ、抱卵期間中・夜♂♀巣に入っていたが、孵化後は♀だけ巣に入っていた。巣立ち前のエサ運びの時、親2羽の他にヘルパーらしき成鳥1羽がいた。6/11～6/16の約1週間、巣立ちヒと親2、ヘルパー1が夕方庭の木に帰ってきた。 河村洋子
350・アツハメ	96.06/03	3巣	八王子市民会館 粕谷和夫
350・アツハメ	96.06/25	8巣	八王子市総合福祉センター・東浅川町551-1（コンクリート建物） 今井達郎
354・キキレイ	96.06/01	数組	北浅川・大沢橋～陵北大橋間の各地、親子連れ（巣立ち雛にエサを与える） 今井達郎、関根伸一、柚木鎮夫、白川史子
355・ウキレイ	96.02/25	1番	湯殿川・住吉橋上流側100m、求愛行動・1羽がもう1羽に向かって尾羽を広げる 小池一男
355・ウキレイ	96.03/31	1番	片倉城跡公園付近、求愛行動 小池一男
356・セウロキレイ	96.05/11	1組	北浅川・大沢橋～陵北大橋、親子連れ 今井達郎、柚木鎮夫
356・セウロキレイ	96.05/18	1組	谷地川・城山下橋下、親子連れ（親1、子1） 粕谷和夫、大川征治・香
367・ヒトリ	96.04/27	数組	長沼公園、親子連れ 馬場裕・百合亜、木村正子
369・マ	96.05/18	1組	北浅川・元八市民センターから真っ直ぐ川に来た辺りで親2

			羽が雛4羽に給餌	河村道寛・洋子
369・エズ	96.06/23	1組	加住南丘陵、巣立ち雛2羽	柏谷和夫、大川征治・香、井手龍世
376・ミサザイ	96.06/01	1組	高尾山・蛇滝のお堂に営巣（巣立ちを確認できず）	柏谷和夫
430・オカリ	96.06/01	♂1羽	小仏城山・日影林道、エサ（生きている虫）をくわえ、周囲を伺い、尾羽を立てながら下の藪の中に飛び込む	小池一男
435・エガ	96.04/28	1組	川口丘陵天合峰、今年巣立った後の巣	柏谷和夫、川戸恵一、鈴木章七、井手龍世
440・ヤマガラ	96.04/29	2羽	長沼公園・巣材運び	嶋崎太郎
440・ヤマガラ	96.05/28	1組	下恩方・滝沢林道、親子連れ	今井達郎
441・ジジュウカ	96.04/21	1番	小宮公園、栗の木に造巢中	小宮公園支援探鳥会
441・ジジュウカ	96.05/12	1組	富士森公園、スタジイの樹洞に営巣・エサ運び	柏谷和夫
441・ジジュウカ	96.05/18	1組	川口川・川口橋～明治橋（つつじ公園）、親子連れ	
441・ジジュウカ	96.05/19	1組	浅川・松枝橋～鶴巻橋、親子連れ	福島弥四郎、清水茂、小池一男、福井司郎、吉沢和子
441・ジジュウカ	96.05/25	1組	片倉城跡公園、親子連れ	小池一男 鈴木章七、川戸恵一、井手龍世、杉森ユリ
441・ジジュウカ	96.05/30	数羽	長沼公園、エサ運び	馬場裕・百合亜
441・ジジュウカ	96.06/16	1組	浅川・松枝橋～鶴巻橋、親子連れ	福島弥四郎、清水茂、小池一男、吉沢夫妻
441・ジジュウカ	96.06/23	1組	八王子市戸吹清掃工場付近、コケラの古巣利用	柏谷和夫、大川征治・香、井手龍世
444・シゴ	96.06/01	数組	親子連れ（巣立ち雛にエサを与える）	今井達郎、関根伸一、柚木鎮夫、白川史子
444・シゴ	96.05/30	数羽	長沼公園、エサ運び	馬場裕・百合亜
471・カラヒ	96.05/11	1組	北浅川・大沢橋～陵北大橋、交尾	今井達郎、柚木鎮夫
488・スズメ	96.04/27	数組	長沼公園、親子連れ	馬場裕・百合亜、木村正子
488・スズメ	96.05/30	数羽	長沼公園、エサ運び	馬場裕・百合亜
493・ムドリ	96.05/11	多数	北浅川・大沢橋～陵北大橋、エサをくわえて運ぶ	今井達郎、柚木鎮夫
493・ムドリ	96.05/30	数羽	長沼公園、エサ運び	馬場裕・百合亜
498・オガ	96.06/23	1組	八王子市戸吹会館の庭の桜、巣の中に雛2羽	柏谷和夫、大川征治・香、井手龍世
503・ハホソガラス	96.04/05	1番	北浅川・夕焼け橋の南、雑木林の樹上・抱卵中	今井達郎 親鳥 今井達郎、関根伸一、柚木鎮夫、白川史子
503・ハホソガラス	96.04/06	2組	北浅川・元木橋上流側300m右岸とゆうやけ橋南側の2カ所の雑木林の樹上の巣で抱卵	今井達郎、柚木鎮夫
503・ハホソガラス	96.04/13	2組	北浅川・天使病院隣のキャンプ場と松枝公園の林の2カ所で抱卵中	河村道寛・洋子
503・ハホソガラス	96.04/27	1番	長沼公園、抱卵中	馬場裕・百合亜、木村正子
503・ハホソガラス	96.04/27	親子	南浅川町大平バス停北100mごん助裏・祠の大木上・巣中に雛4羽、親からエサをもらっていた	川上恵、清水茂、横山由美子、久保田ヤス子、夏目夫妻
503・ハホソガラス	96.04/29	2組	多摩川・滝山城跡下、営巣2カ所	三好恒雄
503・ハホソガラス	96.06/01	数組	北浅川・大沢橋～陵北大橋間、巣立ち雛にエサを与えている	
504・ハブトガラス	96.06/16	1組	浅川・松枝橋～鶴巻橋、親子連れ	福島弥四郎他3名
504・ハブトガラス	96.06/23	1組	加住南丘陵、親子連れ（親1・子2）	柏谷和夫

9. 行動

387・ヒトトリ	98.02/03	2羽	高尾山4号路・イタヤカエデの幹の傷から出ている樹液を吸う、メジロ5羽と一緒に	柏谷和夫
389・ヒト	98.02/10	1羽	川口川・高尾橋付近の瀬で小魚を捕獲して食べた(まるでカワセミの真似をしているようであった)	鈴木章七、川戸恵一、井手龍世、杉森熊二
444・ヒト	98.02/03	5羽	高尾山4号路・イタヤカエデの幹の傷から出ている樹液を吸う、ヒヨドリ2羽と一緒に	柏谷和夫
485・イカル	98.01/08	100羽	高尾山4号路・イヌブナの実を食べに約100羽が集まっていた	柏谷和夫
485・イカル	98.02/03	約40羽	北浅川・小田野中央公園付近の林地の地上で採餌。03/02にも同じ行動を観察(今井) 今井達郎、柚木鎮夫・育子、馬場裕	
485・イカル	98.04/08	50数羽	高尾山・4号路、イヌブナの実に集まる	柏谷和夫
503・ハホソガラス	98.08/23	1羽	八王子市八日町・市街地の中の舗道上*生きたキジバトを襲う。未だ人通りの無い早朝、散歩をしていたら、1羽(1羽だけしかいなかった)のハシボソガラス(ブトガラスではない)が舗道上で何かを食べていた。近づくとカラスは逃げた。残していったものを見ると、このカラスに襲われた直後と思われる頭無しのキジバト(ドバトではない)1羽であった。このキジバトを手にとって見ると未だ少し暖かく、体温の温みを感じたので、カラスに襲われた直後のものと判断した(残念ながら、カラスに襲われる現場を目撃することは出来なかったが、)。このキジバトは①頭が無かった(辺りを探したが見つからなかった)、②背中側から見て、右側が喰われていた(右側の雨覆羽が無く、腹から腰・尾羽根にかけて喰われていた。③このキジバトを家に持ち帰り写真を撮った。	柏谷和夫
503・ハホソガラス	98.08/29	2羽	日野市新井・ムクゲの蕾を盛んにちぎって食べる	柏谷和夫

10. その他

ガビチョウ	98.04/28	声	川口丘陵天台峰	柏谷和夫他3名
ガビチョウ	98.04/28	数羽	下恩方・板当林道終点、姿を確認	
ガビチョウ	98.04/29	声	北浅川上流・上恩方力石付近	山崎悠一・久美子
ガビチョウ	98.05/03	1羽	八王子城跡・ご主殿林道奥、姿確認	柏谷和夫、鈴木章七、井手龍世
ガビチョウ	98.05/04	声	高尾山・蛇滝コース	柏谷和夫
ガビチョウ	98.05/08	声	八王子市宝生寺緑地	柏谷和夫
ガビチョウ	98.05/11	声	川口丘陵天台峰	柏谷和夫
ガビチョウ	98.05/15	2羽	案内川上流・大平林道	川上恵
ガビチョウ	98.05/18	声	北浅川・天使病院の対岸の雑木林	河村道寛・洋子
ガビチョウ	98.05/18	声	加住南丘陵	柏谷和夫、大川征治
ガビチョウ			今井達郎、柚木鎮夫・育子、小沢礼子・節子	
ガビチョウ	98.05/23	声	八王子市川町、住宅地	今井達郎
ガビチョウ	98.05/28	声	八王子城跡北面	今井達郎
ガビチョウ	98.06/01	声	北浅川・東大沢橋~松竹橋間の屈曲点付近の山陰	
ガビチョウ	98.06/15	2羽	八王子城跡奥・御主殿林道奥、姿を確認	柏谷和夫他4名
ガビチョウ	98.06/23	数羽	加住南丘陵、姿も確認	柏谷和夫、大川征治・香、井手龍世
ガビチョウ	98.06/23	1羽	加住南丘陵、姿を確認	柏谷和夫他3名

ベニスズメ	96.01/27	2羽	多摩川・浅川合流付近	阿江範彦
アオガシヨウ	96.06/30	1匹	片倉城跡公園付近の湯殿川を渡る	小池一男
アマミカメ	96.06/29	1頭	浅川・高幡橋下	粕谷和夫
イナ	96.02/10	1頭	川口川・唐犬橋～高尾橋 鈴木章七、川戸恵一、井手龍世、杉森熊二	
イナ	96.04/21	1頭	北浅川・中央高速道橋付近のテトラポットの隙間 福島弥四郎、清水茂、福井司郎	
イナ	96.05/18	1頭	川口川・駒形橋下 鈴木章七、川戸恵一、井手龍世、杉森ユリ	
イナ	96.06/23	1頭	浅川・川口川との合流付近の水辺	粕谷和夫
ガビカエル	96.05/04	声	小仏川・蛇滝口～上栲田橋で5カ所	粕谷和夫
ガビカエル	96.05/10	声	北浅川4カ所・夕焼け橋上流300m、深沢橋下流200m、松竹橋下流400m、東大沢橋下流50m	今井達郎
ガビカエル	96.05/15	数匹	南浅川案内川上流・ごん助裏 川上恵、清水茂、三富恒男、白川史子	
ガビカエル	96.05/23	声	醍醐川・関場から300m上流	尾又英雄、今井達郎
ガビカエル	96.06/01	声	北浅川・大沢橋～陵北大橋間の各地 今井達郎、関根伸一、柚木鎮夫、白川史子	
ガビカエル	96.06/25	声	案内川上流・ごん助裏2カ所	川上恵
ゲンジホトリス	96.06/17	数匹	北浅川・上恩方黒沼田（消防小屋近く）	川上恵
ゲンジホトリス	96.06/30	数匹	小仏川・上栲田橋～駒木野病院裏	川上恵
リス	96.01/06	1頭	高尾山・蛇滝コース	粕谷和夫
サバ	96.04/25	1頭	醍醐林道・最上流部の民家から100m上流側道脇	尾又英雄

ガビチョウについて

今年八王子市の丘陵地を中心に突如としてガビチョウが増えました。林の中で時としてクログミ、時としてキビタキやイカルによく似た大きな声で鳴き、急に鳴き止む鳥です。府中野鳥クラブ会報「やちよう」No.167(96-8-1)にこの鳥のカットが載っていましたので引用しました。姿形はツグミ状で明るい茶褐色系の体に白い眉線が目立ちます。

本誌前号ではガビチョウとタイリクホイビーの両種名を使っていたが、今般日本野鳥の会研究センターに問い合わせたところ、タイリクホイビーはガビチョウの台湾産亜種であり、最近日本で急増しているのはガビチョウと称しておいた方が良くとのことでしたので、今後はガビチョウに統一します。



八王子カワセミ会緑化功勞により東京都知事表彰を受ける

東京都は1996年5月19日、第47回全国植樹祭を都内3会場で開催し、あわせて緑化功勞者の知事表彰を行いました。この表彰は林業部門、自然保護部門、学校緑化部門の部門別に行われ、八王子カワセミ会は自然保護部門で表彰されました。「私達の日頃の活動が自然保護に貢献有り」と認められたものであり、本会の10周年記念行事の最後を飾るものとなりました。

当日は粕谷会長が植樹祭・表彰式に出席し、夜は八王子の甘太郎に会員有志が集まりささやかに受賞を祝いました。今回の受賞は今後の私達の活動に励ましを与えてくれるものであり、決意を新たにしたいと思います(文責：粕谷和夫)。



『数え上げた浅川の野鳥』全国へ広がる

本年3月に本会が10年周年記念事業の一つとして発刊した10年間の浅川の野鳥の記録誌「数え上げた浅川の野鳥」は、会員に配布した他に八王子・日野両市の図書館や国、都、2市の役所の関係各課を始め、近隣の自然保護団体、マスコミ関係等にも贈りました。その結果、幾つかの新聞や雑誌に取り上げられましたので、その一部を抜粋で紹介します（文責：粕谷和夫）。

①読売新聞多摩版（96年3月6日）

一つの川の全域で野鳥の数を調査し、集計した長期にわたる観察記録は全国的にも例がなく、貴重な資料である。

②産経新聞多摩版（96年3月15日）

10年間の記録だけで環境変化を述べるのは難しいが、この本が50年後、100年後に「当時の浅川はこうだった」ということを示す資料である。

③アサヒタウンズ（96年4月20日）

浅川はコンクリートで固められ、生き物たちの生息空間が狭められた。こうした状況の中で健気に生きている鳥の姿を本書の記録は垣間見せてくれる。

④BIRDER（文一総合出版発行月刊誌、96年6月号）

浅川やその周辺で10年間におよぶ会員の自主的な野鳥カウント等の調査結果をもとに多方面にわたる内容が報告されている。

⑤野鳥（日本野鳥の会発行月刊誌、96年6月号）

河川環境を野鳥の数量的変遷からまとめた10年間の観察記録

⑥ユリカモメ（日本野鳥の会東京支部発行月刊誌、96年5月号）

⑦URBAN BIRDS（都市鳥研究会機関誌、96年、第49号）

例えば、オオルリを夏鳥として見た場合、その数の増減は一地域の問題ではなく、「熱帯雨林等の越冬地の環境問題」にまで関わる重大な意義をもつもので、本書の続刊を期待する。

⑧つくば農林野鳥通信（つくば農林野鳥の会機関誌、96年4月、第12号）

生息数、繁殖の状況、渡り鳥、希少種等多岐にわたる調査記録。写真も美しく、イラスト等から浅川の鳥達の息遣いが聞こえてくるようです。

⑨私たちの自然（日本鳥類保護連盟発行月刊誌、96年8月号）

⑩商工日日新聞（96年4月23日）

浅川を「母なる川」として位置づけ、雨の日も、雪の日もフィールドに出て細かく野鳥を調査し、野鳥と人との共生をアピールしている。

このように多方面から紹介されたため、地元のみならず全国から反響がありました。その内幾つかを掲げさせていただきますと、北海道共済農業協同組合、埼玉県のパーター、東京の環境調査会社、愛知県のパーター、大阪市立自然博物館、山口県のパーター、長崎県対馬の小学校の先生等等です。また、多くの方から励ましの手紙をいただきましたので、以下その内の幾つかを抜粋で紹介します。

ア．日野市長 森田喜美男(96/3/26)

日野市では、1989年に全市民を会員とする（財）日野市環境緑化協会を設立し、「まちに緑と清流を、暮らしに花と潤いを」を合い言葉として自然と生活の調和するまちづくりに取り組んでいます。1993年、市政20周年を記念して「市の木に かし」、「市の花に きく」、「市の鳥に かわせみ」と定め市民生活のシンボルとなっています。

この度、八王子カワセミ会様より浅川の野鳥を調査された貴重な出版をご恵送いただき、誠にありがとうございます。市立図書館に所蔵して市民の皆さんの質問資料に活用させていただきます。

イ．多摩川水系自然保護団体協議会 矢萩隆信（96/3/5）

外に出ようとした虫達もあまりの寒さに身をすくめた日に、貴会の熱い記録集を拝見させていただきました。皆様方のご活躍にただ頭を下げるのみです。

ウ．多摩川の自然を守る会 柴田隆行(96/3/7)

いつも貴会の会報にて細かな観察記録を拝読して驚嘆しておりますが、10年分まとめるとさらに質が高まり、かけがえのない貴重な記録です。私達の会は自然環境全般を観察していますが、貴会のように細かく記録することもまた別の発見があり、大変参考になります。

エ．農林水産省農業研究センター鳥害研究室 藤岡正博(96/3/13)

都市周辺部がどんどん開発されていく中で、川や里山、社寺林等が貴重なオアシスになっています。樋口さんも書かれているように、そうした所で地道に長年データが蓄積されることが重要だと思えます。今後の調査にも期待しています。

浅川の冬鳥は減ったか？

(柏谷和夫)

1995～96年の冬は、西日本を中心にツグミ等の冬鳥が激減したとのニュースが飛び交った。このことに関連して日本野鳥の会官古支部から、この冬の全国的な傾向を掴むためのアンケートが当会にも寄せられた(96年4月)。

そこで、当会が毎年1月の第2日曜日に浅川の本支流49.5kmで実施しているカモ類他冬鳥一斉カウント調査結果をもとに、過去5年間と本年を比較してみた。

結果は次表のとおりで、カモ類はマガモ1.79(96年/過去5カ年平均、以下同じ)、カルガモ0.98、コガモ0.73、ヒドリガモ0.73、オナガガモ0.75で特別大きな変化は認められなかった。ユリカモメ0.18は明らかに少なく、タヒバリ0.46も半減であったが、問題のツグミは1.07で浅川では特に変化はなかった。他の主な冬鳥ではハクセキレイ1.05、ジョウビタキ1.37、カンラダカ0.66、アオジ0.74でほぼ平年並みであった。

以上、1月時点の調査でみる限り浅川の冬鳥はユリカモメとタヒバリの減少傾向が認められた以外は特に大きな変化がなかったものとみられる。

浅川本支流49.5kmの冬鳥一斉調査結果

(毎年1月第2日曜調査、単位：羽)

	1991	1992	1993	1994	1995	5年平均	1996	96/平均
5 カイツブリ	1	3	3	3	0	2	2	1
40 カウ	108	78	230	238	120	154	110	0.71
52 ゴイサギ	8	4	30	11	29	16	38	2.38
57 タイサギ	31	28	42	74	54	45.8	50	1.08
58 コサギ	54	88	93	168	167	109.6	125	1.14
82 アオサギ	8	4	4	3	13	6.4	15	2.34
89 クロトキ	0	0	0	0	0	0	1	
87 マガモ	17	9	24	24	18	18.4	33	1.79
88 カルガモ	1,087	1,097	1,054	943	892	1014.6	988	0.98
89 コガモ	1,328	1,797	1,944	1,605	1,510	1638.4	1,193	0.73
89 アメリカカモ	1	0	0	0	0	0.2	0	0
91 ヨシカモ	1	0	0	0	0	0.2	1	5
92 オカヨシカモ	4	12	3	1	3	4.8	2	0.43
93 ヒトリカモ	417	418	318	371	283	357	280	0.73
94 アメリカヒトリ	0	0	0	0	1	0.2	0	0
95 オナガガモ	853	883	718	702	809	709	532	0.75
97 ハシビロガモ	19	39	64	27	72	44.2	38	0.81
104 キンクロハシロ	1	0	2	0	0	0.6	0	0
115 ミコアイ	30	15	0	10	5	12	3	0.25
120 トビ	4	7	8	7	5	5.8	8	1.38
123 オオタカ	0	1	1	1	1	0.8	1	1.25
145 チョウゲンホウ	2	1	2	4	4	2.8	2	0.77
149 コシユクイ	2	8	11	4	2	5.4	2	0.37
151 キジ	1	2	2	0	9	2.8	3	1.07
160 クイナ	0	0	0	0	0	0	1	
177 イカルチドリ	22	38	28	19	47	30.4	39	1.28
186 ぐり	0	0	0	0	0	0	1	
198 ハシキ	5	0	0	0	15	4	0	0
214 クサシギ	2	2	0	1	0	1	0	0

	1991	1992	1993	1994	1995	5年平均	1996	96/平均	
230	タシキ	5	2	3	4	0	2.8	2	0.71
245	ユリカモメ	881	783	659	830	391	708.8	130	0.18
246	セク`ロカモメ	5	5	38	22	17	17.4	19	1.09
250	カモメ	0	0	0	0	1	0.2	0	0
296	キジ`ハト	208	314	274	305	287	273.2	387	1.42
319	ヒメアマツハ`メ	0	20	0	0	0	4	0	0
326	カウセミ	13	24	15	18	19	17.4	33	1.9
331	アオケ`ラ	1	1	0	2	2	1.2	1	0.83
336	アカケ`ラ	0	0	0	0	0	0	1	0
339	ユケ`ラ	15	19	18	18	18	18.4	17	1.04
344	ヒバリ	3	4	2	8	9	4.8	6	1.25
354	キセキレイ	59	75	74	77	56	68.2	40	0.59
355	ハウセキレイ	182	200	165	197	219	192.8	202	1.05
356	セク`ロセキレイ	238	275	237	213	226	237.4	183	0.77
360	ヒンズ`イ	0	0	0	1	0	0.2	0	0
363	タヒバリ	101	125	106	81	55	93.8	43	0.46
367	ヒヨト`リ	359	459	266	343	403	366	432	1.18
369	モズ	41	20	33	47	64	41	47	1.15
375	カワケ`ラス	2	0	0	0	0	0.4	0	0
376	ミソサ`イ	0	0	0	0	0	0	1	0
386	カリビ`タキ	0	0	2	1	1	0.8	0	0
387	シ`ヨウヒ`タキ	34	25	30	24	33	29.2	40	1.37
388	ノヒ`タキ	0	0	0	0	1	0.2	0	0
396	トラツク`ミ	0	0	0	1	0	0.2	0	0
400	アカハラ	1	2	2	1	0	1.2	1	0.83
402	シロハラ	1	1	0	0	0	0.4	0	0
405	ツク`ミ	179	279	235	126	199	203.8	218	1.07
410	ウケ`イス	11	9	13	25	20	15.8	23	1.47
425	セッカ	0	1	0	2	1	0.8	0	0
435	エナガ	14	8	0	2	26	9.8	0	0
440	ヤマケ`ラ	0	0	0	0	2	0.4	0	0
441	シシ`ユウカラ	101	101	166	105	227	140	111	0.79
444	スシ`ロ	18	11	19	25	51	24.4	49	2.01
449	ホオシ`ロ	280	209	225	368	197	257.8	209	0.81
452	ホオアカ	0	0	0	1	0	0.2	0	0
455	カシラカ`カ	141	33	64	75	44	71.4	47	0.66
461	アオジ	53	120	135	97	98	100.6	74	0.74
464	オオシ`ユリン	0	0	4	1	1	1.2	0	0
471	ガフ`ラビフ	819	835	1,593	956	1,100	1060.8	905	0.85
483	ウソ	0	0	0	0	1	0.2	0	0
485	イカル	0	0	0	0	0	0	3	0
486	シメ	7	26	25	12	49	23.8	10	0.42
488	スズ`メ	1,987	2,543	2,736	2,414	2,120	2360	2,846	1.21
493	ムクド`リ	609	958	664	586	762	715.8	825	1.15
496	カケス	0	0	1	0	0	0.2	2	10
498	オナガ	82	43	79	37	21	52.4	74	1.41
503	ハシホ`ソカ`ラス	137	214	251	143	169	182.8	196	1.07
504	ハシフ`トカ`ラス	178	142	134	178	111	148.6	106	0.71
	アヒル	18	15	13	9	3	11.6	10	0.86
	マルカ`モ	0	0	0	0	0	0	2	0
	オ`チョウ	0	0	2	0	0	0.4	0	0
	ト`ハト	544	618	663	1,203	1,080	817.2	830	1.02
	セキセイインコ	0	0	0	0	1	0.2	0	0
	ハッカ`チョウ	0	1	0	0	0	0.2	0	0
	均量数計	13324	14795	15514	14760	13876	14453.8	13575	0.94
	種数数計	84	84	84	84	84	84	84	1

世界環境週間と浅川の清掃と八王子市役所

(粕谷和夫)

毎年6月の始めの世界環境週間には様々なイベントが催される。八王子市役所も94年には市役所前の浅川の河川敷で「川いいなフェスティバル」、95年には市役所の駐車場で「環境フェスティバル」を開催した。「浅川の野鳥を観察する市民グループ・八王子カワセミ会」は兩年とも市からの要請を受け、「浅川の野鳥」をカービング（野鳥の模型）、写真等で展示し、合わせてバードウォッチングの指導を行ってきた。本会はこれに加えて95年は浅川の大沢橋～大和田橋間の空き缶を主体にしたごみ拾いを行い、25袋を拾って会場に展示した。そのゴミの処分は翌日、八王子市役所が行ってくれた。

本年の世界環境週間では、八王子市は前年までの様なイベントは行わなかったが、本会は同週間の趣旨を踏まえて本年も浅川のごみ拾いを行った。それに先立ち、集めたゴミの処分を八王子市の関係部署に依頼した。しかし、ごみ袋を頂いただけで、集めたごみの処分はしてもらえず、ごみ拾いに参加した会員が各自自宅に持ち帰り、通常のごみとして処分してもらわざるを得なかった。具体的な関係部署を挙げて申し分けないが、あえて依頼の経過を掲げると、館清掃事務所→清掃管理課→保険管理課→環境保全課とたらい回しされた。本会の門口事務局長が粘り強く電話と依頼文書の提出までしてお願いした。最終的には環境保全課からOKが出ただけで、これとて集積場所の指示が無く、他の部署からの協力が得られ無かったものとして、断念した。

本会としてみれば、昨年までは市役所前に集めたごみを市は処分したのに、今年由市主催のフェスティバルが無いということだけで、何故やってもらえないのか今でも素朴な疑問が解けないでいる。交渉経過の中では某課からは「河川のことだから建設省の京浜工事事務所に面倒をみてもらったら」とまでいわれた。このような八王子市役所職員の役人根性は何とかならないものか？（文責：粕谷和夫、本文は八王子ランドマーク研究会機関誌に投稿したものの写しです。なお、後日環境保全課から「お詫び」と「来年は収集するのでよろしく」というの電話があったことを付記します）



(夫強先平)



飛式作は... 山の式は... 鳥の式は... (The text in this column is largely illegible due to heavy ghosting from the reverse side of the page.)

鳥の式は... 山の式は... 鳥の式は... (The text in this column is largely illegible due to heavy ghosting from the reverse side of the page.)



○ヤイロチョウ探鳥記

私が長野県でのヤイロチョウの繁殖のことを知ったのは、平成5年に行なわれた県の自然観察インストラクター研修会の折りで、この時には県下の各分野での長老や、専門家達からいろいろな話を聴くことができたが、中でも、大鹿地区（昔から信州のチベットと言われてきた閉ざされた山地）の営林局の職員として永年山に入っていたという人のクマゲラやイヌワシの繁殖の話など唾然として聴いたものだが、今では、此処から近い万古川の山でヤイロチョウの繁殖が確認（信州大学によって）されているが、山が深くて普通では声を聴くだけでもなかなかとの話であった。

その後の信州野鳥の会の万古川探鳥会の記録でも去年は声を聴いているので今年こそ、楽しみにしていたカワセミ会の富士山麓キャンプ探鳥会をキャンセルしてまで参加することにした。

3000m級の山が幾つも連なる南アルプスの赤石山脈とその下西側に平行して連らなる1000～2000mの伊那山地の中、金森山（1700m）に源流を発する万古川は西に約15k流れ下ってJR飯田線為栗駅（してぐり）の下で天竜川に合流している。6/8日夕方、阿南町の南宮温泉に集合、何処も同じ鳥好は酒好きの例に漏れず、尽きない鳥談義と共に深夜まで飲み、うとうととして3時半起床、雨模様でまだ明けやらぬ天竜河畔から山道に入る。朦朧とした酔気と眠気を覚ましてくれるのはいつも鳥の声だ。それも久々のアカショウビンときたら申し分なしだ。

聴けるとしたらこの辺と、案内人の言う所でテープやビデオで勉強したポピー、ポピーや白ペン、黒ペンのききなしまで頭の中で繰り返しながら山の奥から聞こえてくる様々な鳥の声の中からヤイロチョウを聞き分けようと必死で耳を澄ますこと30分余り、「あの二声は間違いなく他の鳥ではない」と「いやどうも確定できない」という二論のまま次のチャンスに期待して更なる山道に踏み入ることにする。

ちょっとでも踏み外せばたちまち10m位は滑り落ちそうな急な斜面に通っている獣道そのものを一列縦隊で、猪が堀った穴や、崖の庇の下のオオルリの巣などを観察しながら歩くこと3時間余、予定の行程の約半分で丁度出た万古川上流部の河原で朝飯、雨も降ったり止んだりでたいして気にならないが、出発点でのあの声の所からは遠ざかっているような気もして、戻るべきではないかという意見もでたが、あとサンコウチョウやブッポウソウを期待して予定コース前進となる。

万古川へ行けばサンコウチョウなど群れていますよ…という話も聴いていたし、この環境ならおそらく出るのでは！という予感にも駆られて歩きつづける。

そして11時少し前、万古隧道を抜けてコース終点まで約6時間半を歩き終えたわけであるが、同宿して先行した日本野鳥の会長野支部ヤイロチョウの会の人達の「どうも確定できない、クロツグミではないか？」という意見もあり、結局各自の判断に任せるしかないということに落ち着いたが、まあ、こうしたフィールドを歩けたこと、見聞できた鳥43種というだけでも満足し、もう一度宿の温泉で疲れを癒して帰路についた。

◎南信の近頃鳥事情

1、5月に中川村でヤツガシラ

駒ヶ根市の隣の中川村で大きく農業を営んでいる高校の同級生がいるが、その果樹園に5月の中頃からヤツガシラが来て10日程毎日、家の屋根でもポポツポポツと鳴いていた…という話を6月の同級会の際に聴き切歯扼腕、「どうしてその時すぐ電話してくれないんだ！」と怒鳴ってみても後の祭り。信州ではつい最近も繁殖の例がある鳥なので、又の機会を十分に注意したい。

2、雪の中のニューナイスズメ

これも隣の飯島町で果樹園をやっている信州野鳥の会会員の家でのこと、今年は雪が多く、2月17日の伊那谷も40cmの大雪、ふと庭先の果樹園をみると、100羽以上のスズメが集まって大騒ぎしている。双眼鏡を取り出して見ると雪に潜って洗われたせいかなにか色がきれいだが、それにしても変だなと思いながら、えっ！まさかニューナイスズメ？いや確かにニューナイスズメに間違いはない、それも30羽位いは居るということで写真にも収めたという。

冬は暖地の低い山や農耕地にいる…鳥とはいえ、伊那谷ではめずらしいこと、雪のために里地に出て来たものとおもわれるが、たかがスズメの群れと見過ごさないで観察する注意力が大切と思われた一件。

3、天竜川にもカワウの大群

私が此方に来て天竜川流域を観察し始めた頃から、時々2～3のカワウを見ることはあったが、昨年あたりから2～300の群れで来るようになって漁協などで騒ぎ始めているが、多摩川や浅川にカワウが来始めた頃の状況と同じである。

こうした現象には何らかの原因が有るのだろうけれども、諏訪湖でコゲンカンドリやアジサシを見たり、駒ヶ根吉瀬ダムでアオサギ、トビ、ヤマセミに交ざってミサゴが餌場争いをしていたりするのだから、いずれ浜名湖や三河湾の方から豊川、天竜川伝いに入ってくるのであろう。大体、南からの渡りの鳥達の移動のコースもこの経路で来て各支流から自分の選んだ高原や山に入るのであろうと思われる。ちなみに、小渋ダムのブッポウソウは今年は二番いが繁殖活動中。

1. 幻の鳥。

最近、「冬鳥が少ない」とか「夏鳥が減っているようだ」と言う話を耳にする事があります。「個体数が…、いや種類も…」と様々な意見があり、実態はまだ明確になっていないようです。その要因の一つとして環境の変化が言われており、日本を含め、繁殖地や越冬地の環境に異変が生じている、という見方が強まっているようです。野鳥にすれば、繁殖地、中継地、越冬地のいずれをとっても重要な生息地であり「野鳥に国境はない」と言われる所以です。

また、虫の世界でも同様の話を聞きました。(話がソレそう・・・)

先日、環境アセスで猛禽類の調査に参加した時、虫の専門家に聞いた話ですが、チョウや昆虫などが少なくなったと嘆いており「青虫などのエサが減れば鳥も少なくなるわいな」と話していました。原因はやはり開発、そして農業、酸性雨などではないか…と推測されていました。植物もまたしかり、という声が聞こえてきそうで、なんともはや寂しいかぎりです。

江戸時代の頃、日本の人口は約三千万人であったのが、今や一億二千万人とひしめきあっています。世界では約五十七億、また五十年後には百億人と推定され増加の一途です。その結果、人類が生活の場を広め、野生の動物の生息範囲を狭めたことは想像できます。

これまでの環境の変化のほとんどが人間のなせるものであって、つきつめて考えると結局は人間が原因となって、人間が豊かさや便利さを追求すればするほど自然の破壊につながるとは皮肉なものであります。

大局的に考えれば、それも自然現象といえますが、人類だけが地球を独り占めするのはどんなものでしょうか。人類の将来の発展などを議論する科学者たちの集まりローマ・クラブの世界モデルによれば、「資源の急速な減少によって、工業生産は増加から減少に転じ、それに伴って人口、汚染もまた増加から減少に変わる」としています。また自然の法則から言っても、人類だけが繁栄するとはとても考えられません。この地球上の生物といつまでも共存出来ればいい…と思います。

話が半分それてしまいました。

夏鳥が減ったといえば、アカショウビンの姿が見えません。高尾山や五日市で見たという話は先輩たちから聞きましたが、いずれも数年前のことで最近姿が消えてしまったようです。

アカショウビンを探すことは信州に来た時から目標の一つでした。文献を探ったり地元の愛鳥家に尋ねたところ、「戸隠村・戸隠」「鬼無里村・奥裾花」「小谷村・奉納温泉」などの地名があがりました。偶然にも長野県北部に集中しており、地図で見てさらに驚いたのは、いっけん何の脈絡もない別のルートから入るこの場所は、山を隔てた隣どうしであったのです。この辺りは「アカショウビンエリア」な

のかもしれないと、この発見に期待は大きく脹らみ、時期を待ちました。

ところが、最初の夏はミヤマホオジロの調査（安曇野だよりNo.2参照）で潰れてしまい、二年目の今年こそは…と勇んでみたものの「戸隠」の今年は見た情報は入らず居ない様だし、「奥裾花」は、昨年集中豪雨の復興の為、今年いっぱい通行止めで入れず、残された「小谷村」も同様に災害復興の工事で、とても探鳥の雰囲気ではありませんでした。

それにしても、昨年長野県北部の集中豪雨の被害は大きく、「奉納温泉」添いの谷でも山崩れが何か所かあり、露出した地肌が何とも不気味でありました。自然の猛威を目の当たりに見たような凄みがありました。谷下の川にはトラックやブルドーザーが入り、また道路では決壊修復工事が進んでおり、一個人が趣味で山に入る状態でない事を悟り、今年の探索はあきらめました。

この被害が、アカショウビンを含めた動植物にどんな影響を与えたのか分かりませんが、むしろ、人が入らない事がかえって良い結果になっているのではないかと考えます。

今年もアカショウビンは「幻の鳥」になってしまいましたが、楽しみはとっとけと言いますので、出合える日を楽しみに来年につなげたいと思います。

（大関 豊）



アカショウビン

Halcyon coromanda

27.5cm

富士鷹なすび「役に立たない図鑑」より

柚木東小学校クラブの探鳥支援

(川上 憲)

八王子カワセミ会の山崎久美子さんが勤務されている、八王子私立柚木東小学校（樋田明校長）では、4年生、5年生、6年生で構成する「自然探検クラブ」（部員24名、担当山崎教諭、赤沢教諭）があつて幅広く自然観察や自然研究、各種探検等に取り組んでいる。

今年4月の八王子カワセミ会幹事会の席上、山崎幹事から「勤務先の柚木東小学校の担当クラブで、5月に野鳥観察（探鳥会）を課外授業として実施するので、会で支援してほしい」との要請があり、幹事会を経て支援することになった。

平日の支援可能者として、三好副会長と田中英吉さんそして私の3人で支援することとなり、5月14日（火）午後2時30分に柚木東小学校を訪問、校長先生に挨拶したのち、クラブ担当の山崎教諭と赤沢教諭に会い、課外授業（探鳥会）の方法等を打合せて、午後2時50分校庭に集合した。

自然探検クラブの男女児童24名に挨拶、自己紹介後、野鳥観察の注意、浅川の鳥の見分け方（浅川の基本種50種の識別法）の配付、双眼鏡の扱い方などの説明をした後、3グループに分かれて近くの大塚公園まで出かけて野鳥観察を行った。

学校裏門を出たところで、木造2階建住宅の屋根裏に、ムクドリの出入りを見つけた。

大栗川付近では、カワラヒワ、ハシボソガラス、カルガモ、ツバメ等を観察大塚公園に入ってから、ヒヨドリ、キジバト、シジュウカラ、ハシブトガラス、スズメオナガ（声）等11種の野鳥を見ることができた。

クラブの児童たちの殆どは、フィールドスコープを覗いて野鳥を見たことは初めてのようで、誰もが、ワァー、オワァー、スゲーなど余りにも大きく見えた野鳥に驚き歓声をあげていた。

わずか60分の探鳥支援であったが、日頃、家の回りで野鳥を見ても何も感じなかったと言う児童が「余りにも美しい野鳥を見て感動しちゃった。これからはもっと関心をもって野鳥を見たい」などの感想を話していた。

柚木東小学校の周辺は良好な環境であり、樋田校長先生をはじめ多くの先生方の関心とご理解があつてこそ今回の野鳥観察会が実現した。

また、観察用双眼鏡を多数購入されるなどして学校あげて児童の情操教育に努力されている。

ことに担当の山崎教諭のご活躍に敬意を表し探鳥支援の報告とします。





(巻 五期)

平塚市鳥会鳥野会誌



『カワセミ』投稿のご案内

冊子『カワセミ』は、皆様からの投稿により紙面を構成しています。内容は、各種調査の結果や探鳥会の感想文などが中心となっていますが野鳥に関することを幅広く収集する方針ですので、積極的な投稿をお待ちしています。

原稿はワープロ化したものをお願いしますが、手書きでも結構です。また、以下の様な執筆要領を作成しました。厳密にとられることは有りませんが、可能な範囲で適用して下さい。

- (1)サイズは、B5、原則縦使い横書き1列とします。
- (2)両サイドの余白は、20mm以上、上下部余白は、25mm以上
- (3)文字サイズ、行間は下記を標準としますが、上記の枠内に収まること。
 - ・文字サイズ：10.5ポイント
 - ・文字間：3.8mm（枠内に37文字）
 - ・行間：6.0mm（枠内に33行）タイトル含む
 - ・文字の種類：明朝体を標準
- (3)紙面を見やすくするためにカット等を活用して下さい。
- (4)原稿（写真も含む）はお返ししません。返送が必要な場合は追記して下さい。
- (5)冊子に使えるカットなどありましたら提供方お願いします。

かわせみ編集局



平成8年戸隠探鳥会バスツアー初参加体験記

(藤江 豊)

テレビで2日間のお天気マークを見たときから楽しい探鳥会になりそうだと思っていた。過去4回の戸隠行きには参加できなかった。いつも残念だった。粕谷会長もカワセミ会での参加は初めてなのだそうだ。

行きのバスの中で、イビキをかく会員は一部屋に集まることとなり当然私も仲間に入った。同室の福島さん、鈴木さんは夜中にトイレに行って、2人だけがヨタカの鳴き声を聞いている。私も丸山さんも寝て起きただけ中間は知らない。多分迷惑をかけたのだろう。ごめんなさい。

初日から良いことの連続ではあったけれど、息を飲む景観とはこの事なのかと思う。

2日目、古池の土手から対岸の方向を眺めると、池は満々と雪解け水をたたえてヒタヒタと音をたてている。双眼鏡で見ると、手前の湿地の白いのは水芭蕉の群落、黄色はリュウキンカだ。丘は淡いピンクのオオヤマザクラが満開。なにやらボーッとした、芽吹きの中にピンクの混じっている丘の低部の景色にフワリとかぶるようにカラマツの淡い新緑の林が連なっている。

更に奥に高く、黒々と淡い岩肌に残雪の谷を書き込んだ様な戸隠山、雲一つない青空。曇り掛けるように、連続して聞こえるカッコウの声、アカゲラのドラミング、この瞬間を心に刻みこんでおこう。対岸に回りこんでみると、湿原は丘の裾まで広がっていて、水芭蕉とニリンソウの白と黄色と若草の緑で清い心で眺めていた。

その時、粕谷会長が花の中に餌を拾うアカハラを望遠鏡に入れた。至福の時だった。帰りのバスに落ち着いて、いつもの様にハイライトベスト3を決めようとしたら収まらない。ベスト5になってしまった。

- ①フクロウ (幼鳥) 戸隠神社奥社参道
- ②クロジ (さえずり、姿バッチリ)
- ③アカゲラ (2日間共実に良く見られた)
- ④キビタキ
- ⑤ゴジュウカラ

私としては、アカハラを加えてベスト6にしたいのだが。

川上さんが2日間トータル47種出たと報告。今までよく出てくれたオオジシギは残念ながらお預けついにいなかった。

参加者21名(大関豊、木村正子さん現地合流)担当幹事は三好副会長(戸隠行き6回目、陰で気を遣って頂きました。有り難うございました。)

番外報告事項1.クロサンショウウオの卵(古池で見つけ。後で分かる、鶏卵ぐらいの大きさ、白色)2.タコカエル(路上の落ち葉のところ、干からび仮死状態、水をかけたらイキカエル)3.かわせみ会初のバス借り切りツアー(幹事殿、成功です)

記録 1:平成8年5月25日 11:50~17:30 戸隠植物園、快晴

ベスト:フクロウ(幼鳥)、クロジ、キバシリ

2:同26日 5:00~8:00 越水ロッジ~戸隠神社奥社参道、快晴

ベスト:サンショウクイ、キビタキ、コサメビタキ、クロツグミ

3:同26日 9:25~12:45 古池、快晴

ベスト:アカゲラ、キンクロハジロ、アカハラ

戸隠のベストシーズンに、良い仲間と良い天気にも恵まれ幸せなツアーでした。

又いくぞ。



幾つ読めますか

(大関 豊)

いつも見慣れているカタカナの鳥名も、漢字で見ると新鮮なものです。さて次の漢字の鳥名は何でしょう。

- | | | |
|---------|---------|--------|
| 1. 三光鳥 | 11. 差羽 | 21. 雀 |
| 2. 野路子 | 12. 錐合 | 22. 隼 |
| 3. 大白鳥 | 13. 雪加 | 23. 鷗 |
| 4. 酒面雁 | 14. 小雀 | 24. 鶯 |
| 5. 葦五位 | 15. 郭公 | 25. 梟 |
| 6. 白千鳥 | 16. 翡翠 | 26. 鶺鴒 |
| 7. 大瑠璃 | 17. 黄鶺鴒 | 27. 鴝 |
| 8. 小寿林 | 18. 青鶺鴒 | 28. 鶺鴒 |
| 9. 小杓鶺鴒 | 19. 真鶺鴒 | 29. 鶺鴒 |
| 10. 黄鶺鴒 | 20. 鶺鴒 | 30. 鶺鴒 |

(回答は 51 ページ)

妙高・火打山登山探鳥会

(藤本ヤス子)

深田久弥は「日本百名山」で、スキー場として名高い妙高山を、越後の名山であり、のみならず日本の名山であると讃えている。

その妙高へ今回はふだんの遠出より1日多い2泊3日の山旅探鳥会である。制定されて初めての祝日「海の記念日」と夏休み初日が重なって、連日暑い日が続いていた東京を抜け出す車で、高速道路へ入るのに1時間を費やす。

登山口の笹が峰へ着いたのは昼過ぎ、ここで待ち合わせの穂高分所の大関さんをご待たせしてしまう。

高原の夏、ブナの多い樹林帯の中へ入っていく時の気分は格別である。しかし、ルンルン気分もやがて過酷な急登「十二曲り」に息を喘がせることになる。残雪が多くぬかるむ道を、自分のリュックだけでも重いのに、長時間の運転までした幹事さん達は望遠鏡をかつぎあげて、オオシラビソのてっぺんで鳴くウソのきれいな紅色を見せてくださる。

ワタスゲやハクサンコザクラの群落がつづく黒沢池の湿原のはしに、今夜の宿はある。ヒュッテは八角形のドーム形、3階建てで普通は収容100名のところになんと220人。翌朝の話題は、いかにして横になっていたかでもちきり。

外輪山に囲まれた妙高山は、前衛の山からもう一度登り返すのである。何回も雪渓をトラバースして、岩だらけのきつい登りが頂上までつづく。

頂上は南北に細長く、突きだした巨岩の上にイワヒバリ。ここでもスコープは担ぎ上げられて威力を発揮。居合わせて他の登山者もつぎつぎに望んで歓声をあげる。その日に登る予定だった火打山は、妙高で恐れをなした気弱な雰囲気ですぐに持ち越し、2泊めの山小屋は昨日の混雑が嘘のよう。夕食のメニューもリッチで男性陣の魔法のリュックからは鳥のラベルのワインまでが出てくるのです。

高谷池へ向かう途中、昨日はガスがかかって見えなかった北アルプスが白銀の山並を現し、しばらく立ち止まる。

荷物をおいて火打山へ。雪渓を越えた天狗の庭は、池塘に煙を上げる焼山の姿を写して、ハクサンコザクラがピンクの絨毯のように咲き乱れている。

登山道には高山植物が咲き競い、ふっと目に入る下向きに開いた薄い紅紫色の花幻の花になりつつあるアツモリソウです。

下りにかかっても、もう半ばあきらめていた頃、先頭を歩いていた門口さんが振り返って静かな声で告げる。「雷鳥がいます」

ほんとに目の前、ゆったり土浴びもしたりしている。目の上に赤色部。羽毛が生えている太い足。ググーの声をのこして飛び立つまで、くぎづけになって観察する。最後のフィナーレにふさわしい。

初めての遠出探鳥会はおそろおそろ参加しましたが、さりげなく暖かく接してくださる皆さんに励みを得て、すっかりのめりこみ今回は3度めです。

毎回お礼を申し上げる機会がないので、この場をかりて、いつも大変お世話になりました。厚くお礼申し上げます。

引籠巣大一の鳥類



「なかのうがんじま」と呼ぶこの島は南西諸島、西表島の南西16キロの海上に浮かぶ周囲3.6キロの小さな島である。7月の下旬、当会の会員でもある加藤岸男さんのお誘いで、この島を探鳥する機会に恵まれた。アジサシ類を始めとする、南方系の海鳥を心ゆくまで堪能できたすばらしい探鳥行であった。

石垣島から漁船にのって

この島は無人島で、船の定期便はない。その上、天然記念物に指定されているため許可なく上陸することは禁止されている。今回は石垣島から漁船をチャーターしていくこととなった。7月14日、早朝6時に船は石垣港を出港した。ちなみに漁船のチャーター料は5万円。仲ノ神島までは石垣島から直線で約80キロ、普段は約2時間はかかる航路だが、この日は波もほとんどなく、約1時間半で島に到着。途中、海面から突き出た航路標識の杭に止まるオオアジサシやカツオドリの姿が見られた。

海鳥の一大繁殖地

島に近づくと、大きな翼を広げ旋回しているカツオドリの勇姿が目にとまった。そして、波打ち際の岩肌にはクロアジサシの群が見られ、焦げ茶色の体に白っぽい頭が印象的であった。少し風がある島の南側からゆっくりと船を北側に回し、船のエンジンを止めた。

この島で繁殖が確認されている海鳥は6種類、その内、アジサシの仲間はセグロアジサシ、マミジロアジサシ、クロアジサシの3種類である。最も個体数が多いのはセグロアジサシで、数千羽が繁殖している。大きな岩盤に並んで止まる群が多数観察された。セグロアジサシとよく似ているのがマミジロアジサシ。地上にいるときは眉斑の長さの違い、後頭が白いかどうか等で見分けられるが、飛んでいる個体は識別が難しい。島では、セグロアジサシの群とは、離れたところでまとまった群が観察された。

他に、カツオドリ、アカアシカツオドリ、オオミズナギドリの繁殖が確認されている。カツオドリは真っ白な幼羽を身にまとったヒナの可愛らしい姿もあちこちに見られた。

アカオネツタイチョウ現る、そしてシラオ…も！

船のアンカーを降ろし、船頭さんがその場で釣り上げた魚の刺身を食べながら、鳥をのんびりと眺めるといふこの上ない至福の探鳥が、ある鳥の出現でさらに盛り上がった。「アカオネツタイチョウがでたー！」である。この鳥は国内では硫黄諸島や南西諸島以外、観察するのがなかなか難しい種類で、本土では台風等で迷行した例がたまにある程度。今回の探鳥行では見れたらいいなーとひそかに思っていたやつだ。真っ白い体に真っ赤な嘴と尾羽、ひらひらと優雅に飛ぶ姿にしばし見とれる。まさに熱帯の鳥の代表格だ。昔から憧れていた鳥だけに興奮してしまった。そして、シラオネツタイチョウの出現である。興奮はおさまらない。

アカオネツタイチョウが見られたと満足していたところに、突然のシラオネツタイチョウの登場。まさか、シラオネツタイチョウが出るとは…。この鳥は、アカオネツタイチョウよりさらに見る機会の少ない種類である。同じ場所で見られるとは夢のような話である。白い体に黄色い嘴、白く長い尾羽がたなびくように流れて、飛ぶ姿は清楚そのもの、感動すら覚えてしまった。

この鳥が飛び去ってしまった後も感激の余韻が残り、加藤氏に駆け寄り、握手を求めてしまった自分が今となると少し恥ずかしいが、それ程、この鳥の出現は素晴らしいものであった。

海鳥の楽園がいつまでも続くように



仲の神島の周りはダイビングやフィッシングのポイントでもあり、名が知られつつあるが、まだまだ、秘境の感がある。この島は明治15年古賀辰四郎氏によって、はじめて探検されたとされているが、西表島の人々は、かなり昔から、福木の花の散る頃（5～6月）、セグロアジサシ等の海鳥の卵を取りに、松の刳舟をこいで行ったと言う。また、昭和40年代頃までは台湾のトビウオ漁の船が近づき、テッパイ（竹のいかだ）で上陸し、卵を略奪していったとのこと。それも事前に一度、抱卵中の卵を取り捨て、その後、新しく生み足した新鮮な卵のみを大量に採取するといった巧妙な手口で、生菓子の原料として持ち帰ったらしい。

海鳥の繁殖地として天然記念物に指定されたのは、昭和47年になってからである。この島の近海はタンカーの航路でもあり、廃油の垂れ流し等も、危惧されているとのこと。黒潮本流が北上し、海鳥にとって餌場にも恵まれた海鳥の楽園、仲の神島がいつまでも、楽園であり続けるよう願わずにはいられない。

仲の神島で見られた鳥（航路を含む） 96.7.14

アカオネツタイチョウ、シラオネツタイチョウ、カツオドリ、アオツラカツオドリ、ソリハシシギ、オオアジサシ、エリグロアジサシ、マミジロアジサシ、セグロアジサシ、クロアジサシ、クロサギ

石垣島で見られた鳥 96.7.12～13

リュウキュウヨシゴイ、ズグロミゾゴイ、ゴイサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アマサギ、クロサギ、ムラサキサギ、カルガモ、ミサゴ、ツミ、ミフウズラ、シロハラクイナ、オオクイナ、バン、シロチドリ、コチドリ、メダイチドリ、キョウジョシギ、ヒバリシギ、アオアシシギ、タカブシギ、キアシシギ、イソシギ、チュウシャクシギ、ツバメチドリ、オオアジサシ、ベニアジサシ、エリグロアジサシ、コアジサシ、キジバト、ズアカアオバト、キンバト、アオバズク、セレベスコノハズク、ツバメ、サンショウクイ、シロガシラ、ヒヨドリ、アカショウビン、セッカ、サンコウチョウ（声のみ）、シジュウカラ、メジロ、スズメ、ハシブトガラス

鳥見人 加藤岸男、山崎悠一、柚木育子、林庭弘征、古山隆

<参考文献> 海鳥の楽園 仲の神島 大仲浩夫 「野鳥」 1976年12月号

守ろう八王子ニュータウンの緑

(粕谷和夫)

八王子ニュータウンの地元のおばさん達を中心になって「宇津貫みどりの会」を結成し、尾根筋に残る雑木林（宇津貫緑地）の管理を住宅都市整備公団とともに行っています。面積は約10ha、3年程前から篠刈りを中心に雑木林に親しみながらの遊び心で取り組んでいるとのこと。武蔵野の元風景といわれる雑木林は人間の手による管理が行われて始めて維持できるものであり、昔は薪炭、炭焼き、くず払い等を通じて雑木林は維持管理されてきたわけですが、今日では雑木林は燃料や肥料源としての価値がなくなり、さらに人手不足で昔のような維持管理はできなくなっています。

宇津貫緑の会は雑木林を何とか残したいという地元の人達のボランティアの会です。月2回、土曜日の午前、鎌を手に篠竹刈りに汗を流していますが、面積が広く未だ全体の半分ぐらいしか終わっていないとのこと。この会からの推薦で東京都緑の推進委員になっている市川さんから、他の推進委員へ篠刈り作業参加呼びかけがありました。そこで八王子カワセミ会としても年に1回位は探鳥会を兼ねた篠刈り支援を行って、ニュータウンの緑を守るための協力ができないだろうかと思い、今年の3月30日に宇津貫緑の会の青木会長に案内をお願いして下見を行いました。

八王子ニュータウンは今は造成中で、来年の3月にはJR横浜線の新駅開業とともに町開きをするという。案内された場所は丘陵と谷津田で構成される典型的な里山で、傾斜地には雑木林が残り、田圃跡はホタルの湿地、その下流部は調整池になっていてマガモとコガモが1番づつ浮かんだいました。雑木林は篠刈りが終わった所と未だの所が歴然としていて、終わった所には可憐なスミレの花が咲いていました。あいにくの雨の日でしたが、尾根からは晴れていれば、西に富士山、北に八王子市街地が展望出来るという。

探鳥会の場所としては少し規模が小さい感じはしますが、里山・丘陵の鳥、カモ・カワセミ等の水辺の鳥を充分楽しむことが出来ますし、篠刈り作業と結びつけばひと味変わった探鳥会になり、緑の保護にほんの少し貢献出来るのではないかと思います。このような趣旨のもと、八王子カワセミ会の会員が参加する「緑のために汗を流す探鳥会」が実現することを願っています。



シジュウカラの巣立ち

(今井達郎)

我が家に設けた巣箱からシジュウカラが巣立ちましたので、その様子を報告します。

5月7日の朝6時55分頃、「あっ、シジュウカラが・・・」と叫ぶ妻の声に庭の芝に目をやると、巣立ったばかりの雛が震えながら目を開けたり閉じたりして動かない、胸のネクタイが太いので雄だ。妻の説明によれば、親鳥と一緒に降りてきたが、親は飛び去ってしまったと言う。よく観察すると、ひな鳥は震えているのではなく、心臓の鼓動に合わせて全身が細かく動いているのだ。しかし、なかなか行動を起こさないし、親鳥が近づく気配も無い。今、猫やカラスが来たらこの小さな命はおしまいになると思うと気が気でない。10分以上経過したと思われる頃に、このひな鳥はまず嘴を開け閉じし、次いで小さな翼を動かした途端に、芝生の真中からピョンピョンと動きだして草の茂みに入っていった。その時、餌をくわえた親鳥が近づいて来たが、親子のコミュニケーションは草影で見えない。

ともかく、これで一安心と朝食にする。2羽目の雛が芝生に降りたのは7時32分であった。ネクタイの細い雌で、その様子は前述とまったく同じで、動きだす迄の時間は丁度12分であった。動かない雛の近くにスズメが降りてきたが、チョンチョン廻って飛び去った。芝生の中の移動は、時に蹠づいてよろけながら3mくらい動いた処で、親鳥が餌（ミミズの様であった）を与えた。

それから、ほぼ1~2時間後物干し竿に止まった。若鳥は、親から餌をもらって飛び去った。巣から降り立ったか弱いひな鳥が、短時間にこんなに立派になって飛ぶ姿に驚きを感じた。

午後、家庭菜園にてたところ、木陰のひな鳥が警戒の声をあげ、間髪を入れず親鳥が飛んでくる。

その後、親鳥のけたたましい鳴き声に様子を見るとドラ猫が近づいて来たが、人の気配に逃げて行き事無きを得た。

以上の次第で、感動の1日が暮れた。



ハクガン 5,000Kmの旅

(北平 章)

このまま放置すれば絶滅の危機にあると言われているハクガンを、最近日本の愛鳥家や研究者の中から渡りのルートを変えて繁殖させようという計画がもち上がりロシアとアメリカと手を組んでまず調査から始まった。

すでにご存じの方も多と思われるが、あえて再現の記録をここに述べることにする。

調査の方法は、小型の発信器を鳥につけ通信衛星で飛行コースを確認するというやり方である。その結果、ロシアのウランゲル島を飛び立ったハクガンの群れはアラスカからアメリカ西海岸フロリダまで南下し 5,000Kmの旅をするのである。

そして絶滅を救う手はないか検討を重ねた結果、マガンのルートにのせることに成功すれば日本に安心して住めて繁殖は間違いないと考えられた。

マガンのルートはロシアのカムチャッカ半島を飛び立ち北海道の釧路湿原を經由して宮城県伊豆沼に、それから新潟や茨城にくるといわれている。

ではどうやってそのルートにのせることができるかという、ウランゲル島で抱卵中の卵をマガンの卵と入れ換えるのである（仮親方式という）。

そうすると知らないハクガンの親鳥は自分の子供として育て、生まれた雛鳥は自分の親と思って行動するからすべてが家族として行動することになるわけだ。これを繰り返すうちに増えていく計算になる。

問題はこんなことをして天罰が下らないか？生態系を乱さないか議論の分かれるところとなったが、結局、検討の結果問題ないということになった。

そこで第一回の孵化が始まった。ところがこれが中々難しい作業である。先ずマガンの卵を壊さないようにしかも温度を一定にしてウランゲル島に運搬するのである。更にハクガンの親鳥がエサをさがしに飛び立った隙にこっそり同じ数だけ（約半数）取り替えるのだ。親に見つかれば又やり直しである。

また、卵を生んでからの日数が同じでないと成功しないので捕獲した卵一個一個を測定して日数を割り出すのである（どうやって測るかといえばクイズになるが頭の良い皆さんならご存じのはず？塩水に浮かべて傾きかげんを見て見分ける方法を使う）

こうして、第1回は41個の孵化に成功したが問題はまだまだある。極寒の地の果ての子育てほど難しいものはない。

アザラシや白熊など強敵は多い。そのうち何羽かが育ってマガンの子供はアメリカのフロリダへ、そしてハクガンの子供は初冬の日本ルートへ伊豆沼や新潟で数羽それらしきハクガンが確認されている。らしきと言うのは紛れ込むものもあるし、家族行動(親子)をとっているか十分な確認が必要でそれ以外にいまのところ方法がないからだ。

今年、来年になるともっと増えているはずであるが一日も早くこのハクガンをこの目で見たいものだ。

そして平和日本の空にそのキレイな姿を一杯見せてほしいと願わずにはいられない。

注) これは、94年にテレビ朝日で放映されたもの。その後TBSとNHKで同じ放送があった。



《クイズの回答》

1. サンコウチョウ
2. ノジコ
3. オオハクチョウ
4. サカツラガン
5. ヨシゴイ
6. シロチドリ
7. オオルリ
8. コジュリン
9. ダイシャクシギ
10. キセキレイ
11. サシバ
12. キリアイ
13. セッカ
14. コガラ
15. カッコウ
16. カワセミ
17. キビタキ
18. アオジ
19. マヒワ
20. ミソサザイ (三十三とも書く)
21. スズメ
22. ハヤブサ
23. カモメ
24. ウグイス
25. フクロウ
26. バン
27. モズ (他に百舌)
28. ヒヨドリ
29. ツグミ
30. ウソ

サラリーマンを辞めてから4ヵ月、毎日が日曜日である。30年近い会社務めの間中、望みつづけてきた日々をいま実際に過ごしている。あらゆることが自由だ。この間、およそ全てのスケジュールは自分で決めてきた。ところが、自前で行くBWが増えた反面、当会への参加は減ってしまった。どういうことかと言うと、旅行会社や自分で計画した探鳥行へは出かけるものの、期日が重なる時には、カワセミのそれを欠席することが多くなったからである。特にそれが浅川近隣の場合では、何時でも、自分一人でも行けると思い、優先順位を下げてしまう。今年から幹事をクビになり、土日にやっていた役員会から解放されたことも影響している。

理由はまだある。人からの依頼で、気軽に手伝いや企画作りに応じ、結構、時間を取られて来た。ほかのNGOでの探鳥指導や、ラジオでの野鳥解説、役所への要望・陳情など、かつて経験しなかった分野に参加することが多くなった。

今年3月末、重大なことが起きた。家のそばに団地が建つと聞き、開発される前に見ておこうとBWしたら、何とオオタカの営巣を発見したのである。関連の行政機関、地域住民、開発側および調査会社等との折衝を経て、まずは繁殖を含む生態調査を検討、実施することになった。それ以来、ほぼ毎日朝から日没まで、営巣地のパトロールと遠隔監視が始まった。当然の成り行きとして、無職の僕はオオタカ観察の専任になってしまった。そして、当会の予定行事ではないにも拘らず、会長や僕の呼びかけた多くの有志に参加いただき、二度に渡って組織的に観測、調査することができた。結果はいづれ公にされる運びだが、皆様にはこの紙面を借りてお礼を申し上げておきたい。まことにありがとうございます、と。僕にとってまたとない、いい勉強になったことだった。

この数ヵ月は上意下達の命令も、通勤地獄もない、あこがれの月日であり、やりたいことが何でもできる時期だった。まず、朝晩の新聞をきっちり読むようになり、思っていた以上に野鳥や草花の記事がたくさん載るのに気付くことになった。オウム事件や、阪神大震災や住専処理など、心の晴れぬ事件が多過ぎる一方、沖縄ヤンバルの国立公園化構想、奄美住用村ゴルフ場開発での再アセスおよび自然の権利訴訟など、自然生態系を守る運動が行政をリードしていることに感動する。特に、学生時代に関わった本土復帰と重ねて、今なお少女暴行事件や地権問題などの基地

公害が続き、戦後日本の民主主義の根幹を問うている沖縄に、僕はいま再び熱い眼差しを注いでいる。予定通り国頭に野生生物センターが出来たら、お世話になった人たちに会いに行き、祝杯を挙げたいと願っている。

さて、それやこれやで、今でもとっても忙しいのだ。ヒマになったらやろうとしていたことに手が回らない。録り溜めたビデオも見られず、写真や手紙や新聞・雑誌の切り抜きの収納をはじめ、パソコンソフトのセットアップやインターネット等にも時間を割けない。うず高く、ベッドの周りや書斎に積んで読んでいる野鳥・自然関連本の読破しかり、前々から買い込んである図鑑やテープ、CDでの声などの勉強もまたしかりである。そしてやりたいことの本命は、いつも年末にまとめている探鳥記録やライフリストを、BWの度毎に蓄積してゆけるようなデータベースの構築である。いまだに僕の視認鳥は320~350種?と不定のままだ。

オオタカの営巣以来、地元のフィールドがますます大切だと感じるようになってきた。天売島のウトウはきっと今夜も、あの帰巢のドラマを演じているだろうし、石垣島バナナ公園そばの松林には、キンバトが餌を求めて飛んで来ていることだろう。もちろん、それはそれで確かに僕を豊かにしては呉れたが、いま彼らの存在は遠い景色だ。が、その対極として、都市公園でキビタキが越夏したり、谷戸の上の鎮守の森でフクロウが2羽巣立ったことなど、身近な自然で起きていることを、誰よりも正確に知るべきなのは僕たち自身なのだと思う。里山の乱開発で追い詰められたためか、件のオオタカは3羽が育雛に関わる異常な営巣で、結局巣立ちには至らなかった。開発の是非を含め、今後の対応が厳しく問われていると考えている。

これからももっとBWに行きたいし、まだ10年以上も家のローンは残っている。穂高にサロン・カワセミを建てる夢はいつ実現できるだろうか。決して贅沢をするつもりはないが、家の修理費もかかるし、いづれクルマも買い換えの時期が来る。年のせいかもしれないが、新しいハイテク製品などには、もう余りトキメかなくなった。その反面、ここ2、3年はコンサートに出掛けることが多い。やっぱり先立つものは何とやらで、働ける内は収入を確保しなければいけないのだろう。

僕はいたって飽きっぽいタチである。ついでに白状すると、諸先輩からも聞いてはいたが、時間に追われないと人は仕事をしないものだと、この度は身をもって実感した。机の上の整理をほどほどにしたら、早ければ9月中にも、またぞろ会社人間となり、慌ただしく顧客のアポ採りなどに励むことだろう。 以上

(編集メモ)

本年の始めに、幹事の方々から機関誌「かわせみ」の編集担当を依頼された内容的なことや仕事上の制約などから不安を残しつつ担当することとなった。

いままで、拾い読みをしていた反省から通勤途上の時間を利用して再度「かわせみ」を読み返してみた。調査結果と言うハードで貴重な資料とウッチングコーナーのソフトで面白い記事の組み合わせが良くできており今更ながら三好編集長のご苦労や投稿された方々の多彩な内容に感心しました。

発行に際し、原稿の依頼を快く受けて頂いた会員の方々ありがとうございました。無事、発行のはこびとなりました。また、表紙のイラストは、船橋市在住の蛭田公子さんの協力を頂きました。引き続き、皆さんの積極的な参加をお願いします。

「共生」と言う言葉を良く耳にする。多自然型河川づくりやエコロード、ビオトープなどは身近な生物との共生を実現する技術である。

「宇宙共生」これは、比叡山延暦寺で見かけた言葉である。環境問題は地球規模に広がりを見せている。その中で 5,400種の動物と 4,000種の植物が絶滅の危機にありこれまでにない速さで多くの貴重な種が絶滅していると報道している(読売新聞 95' 11.15)

最近、世間を騒がしている病原性大腸菌「0157」に関連しこんな記事があった。「生物界にはニッチ(生態的地位)というものがあり、生物は自分の生息場所を持ち、相互に関連しあって生きている。人間と共存していた常在菌が消えると、強力な病原菌が空いたニッチに入り込んで増える可能性もある清潔という状態にも限度があることを理解しなければ生きていけない・・・」

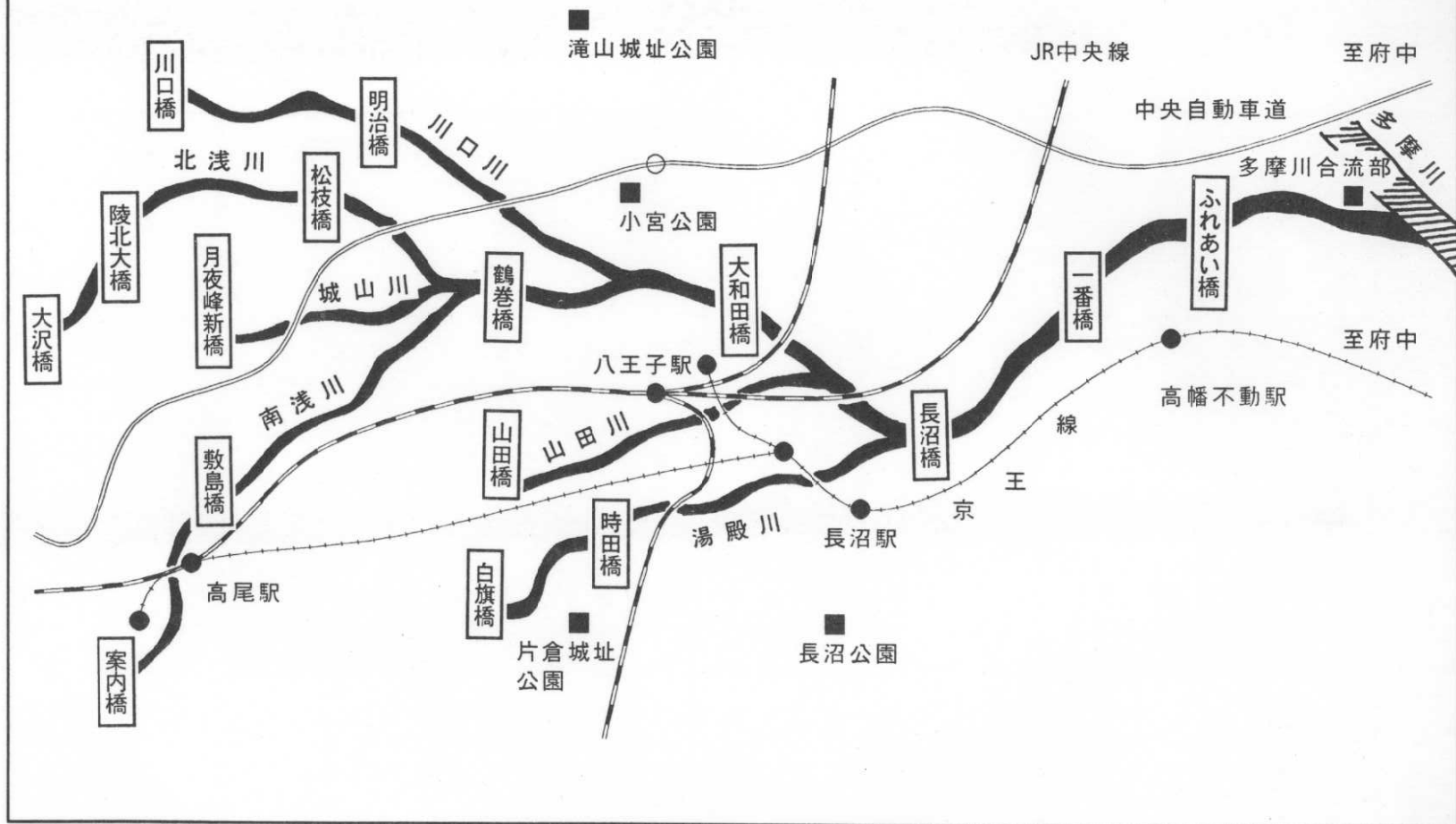
共生も細菌から宇宙までか・・・

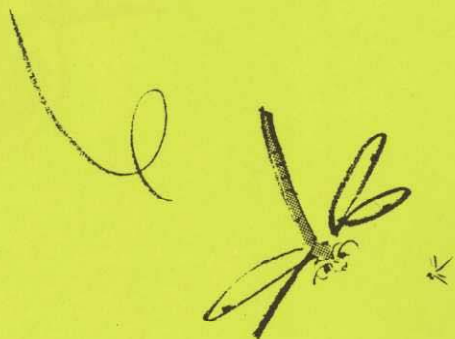
昨年末、多摩川に19年ぶりと言われるオオハクチョウが飛来し、バーダーを楽しませてくれた。しかし、彼らにとって多摩川は楽園でなかった。(P13)

浅川で白鳥や雁が舞っている風景はどんな風景なのだろうか・・・
多くの生き物たちと一緒に上手に暮らしたらこんなすばらしいことはないだろう。(N/ae)

カ	ワ	セ	ミ
1996年	8月	発行	第17号
発行	八王子	カワ	セミ会
発行人	柏谷	和夫	
編集人	阿江	範彦	
連絡先	日野市	三沢	2-6-42

〈 八王子カワセミ会の主な調査範囲位置図 〉







**Hachiōji
Kawasemikai**